



犬猫保護団体 活動白書2025

2025年4月

公益社団法人アニマル・ドネーション

協力：アマゾンジャパン合同会社

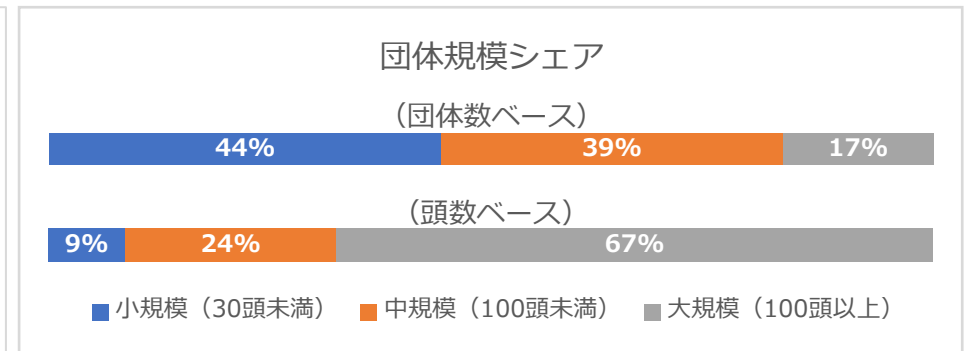
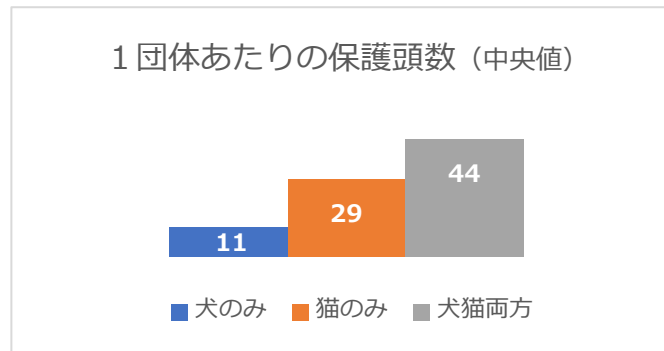
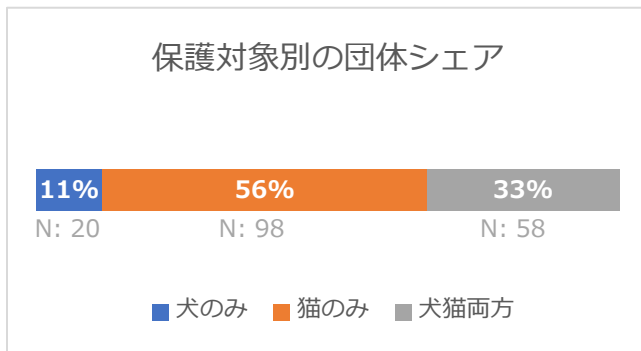
調査設計

目的

- 犬猫保護団体の現状と課題を確認し、今後の活動レベルおよび一般認知の向上につなげる
- 保護犬猫の迎え入れ促進や動物福祉改善へ向けた方向性を、業界・行政など多様な視点で検討する

概要

- 調査期間： 2024年12月12日～29日
- 調査方法： オンライン調査
- 調査元： 公益社団法人アニマル・ドネーション
- 調査対象： アマゾンジャパンの保護犬・保護猫支援プログラムに登録している犬猫保護176団体
 ※保護団体数・・・犬のみ保護：20団体、猫のみ保護：98団体、犬猫両方保護：58団体
 保護頭数・・・全団体合計：14,523頭、1団体あたり中央値：34頭



※便宜的に団体規模を保護頭数ベースで三区分のうえ集計実施

総括 (1/2)

▼ 保護団体の活動状況

- ・ **保護団体のスタッフ人数割合は8割が保護活動、2割が管理部門に従事**
 - ・ 保護活動・管理部門合わせて**無償スタッフ割合は76%**を占めており、団体活動を支えている
- ・ 調査時点の確認において、**犬の保護頭数「10頭未満」の団体が53%、猫は「10~50頭未満」の団体が55%を占める**
- ・ 犬は「行政施設（動物愛護センター等）（74%）」、猫は「野良猫（76%）」と「捨て猫や迷子（元々飼い主がいたと思われる猫）（64%）」が主たる保護経路
- ・ 面談数・譲渡決定数が「毎月5件未満」の団体が過半数、「毎月10件未満」まで含めると全体の約8割が該当
 - ・ 団体規模が小さい方が譲渡が決定する確率が高い傾向が伺えた

▼ 保護団体が考える課題感

- ・ 動物福祉に関して特に懸念が示されたのが「**一般オーナーの飼育放棄（82%）**」と「**一般オーナーの多頭飼育崩壊（80%）**」と、**いずれも一般オーナーに向けられている**。また、犬のみ保護している団体からは「**ブリーダーによる多頭飼育崩壊（80%）**」も大きな課題として挙げられた。
 - ・ 法律・制度の課題観としては「**ペット流通（生体販売）（84%）**」が特に意識されていることが確認された
 - ・ 現状を変える新しい制度への期待も見受けられた（例：医療・心理カウンセリング学の取り入れ、アニマルポリス、緊急保護の一時飼養場所確保、動物愛護管理法の警察専用窓口設置、動物愛護の生涯学習、ブリーダー免許制導入）
 - ・ 団体運営では「**十分な運営資金や物資の確保（59%）**」に課題感が集中し、団体規模が大きいほど傾向が強まる（67%）
 - ・ **団体規模が小さい方が迎え主探しに苦慮している一方、大きい方がスタッフ探しに課題観を抱える傾向**
 - ・ 受けたい支援は「寄付」と「消耗品」の需要が突出（88%）、次いで「迎え主（新しい飼い主）探し」も大多数の団体が要望（57%）

総括 (2/2)

▼ 迎え主に望む要素（属性ではなく実情・心理面アプローチ）

- ・ 団体が譲渡拒否を判断するポイントは、**住居環境（室内飼育ができない）**（94%）
 - ・ 条件面で判断される傾向が強いと同時に、**迎え主（新しい飼い主）の飼育理解度**も重視される傾向（70%）
 - ・ 猫のみを保護している団体では**特に住居環境や去勢に関する同意**を求めている
 - ・ 犬と猫の両方を保護している団体ではそれ以外に**散歩の時間や転居に関すること**
- ・ 譲渡数を増やすために重要だと思われる点として「**動物の社会的地位向上**」が最も選ばれた（56%）
 - ・ 「**飼育相談先の充実**」「**飼育初心者向けの意識改革**」といった飼育者向けの支援や啓発も過半数を超えて挙げられている
- ・ 譲渡時の説明は施設規模に関わらず行われているが、**小さい施設では譲渡“前後”の相談事の受付が相対的に低い傾向**

▼ 団体の保護活動内容

- ・ 中小規模の団体では犬の散歩により時間をかけている傾向。大きい施設では1匹にかける時間が短い傾向がみられる
- ・ 犬とのふれあい時間を3時間以上かけている団体が多数。上記同様、大きい施設では1匹にかける時間が短い傾向がみられる
- ・ 犬を保護している73%の団体では**担当者によるしつけ**がなされており、**トレーナーによるしつけ**も33%を超える
- ・ 多くの団体は**犬猫に寄り添った栄養管理**（良質なフード（82%）、年齢別（79%）、アレルギーや病歴別（70%））を実施
- ・ ストレス管理面では、団体規模が**大きいほど自由になれるスペースを作ることに配慮**している一方で**小さい団体はリラックスできる空間づくりを考慮**している傾向

保護活動団体の現状：スタッフ区分

- 管理部門を主業務とするスタッフがいない団体は約7割に上る（有償73%、無償65%）
- 保護活動では有償スタッフが少数傾向の一方、無償スタッフは分散している

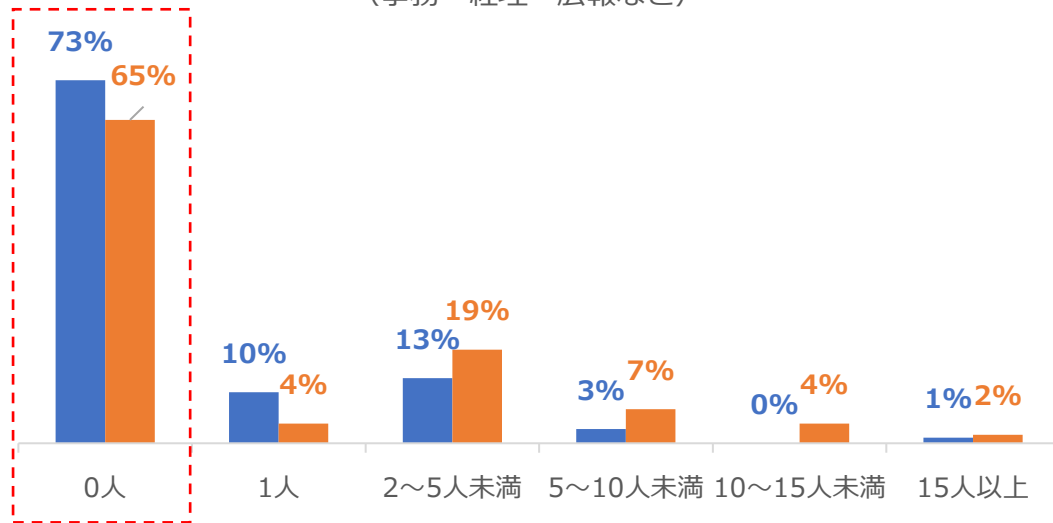
団体に関わっている方の人数を教えてください

※管理部門と保護活動いずれも対応している場合は主な役割のほうを選択
 ※理事・監事は含まない

■有償 ■無償

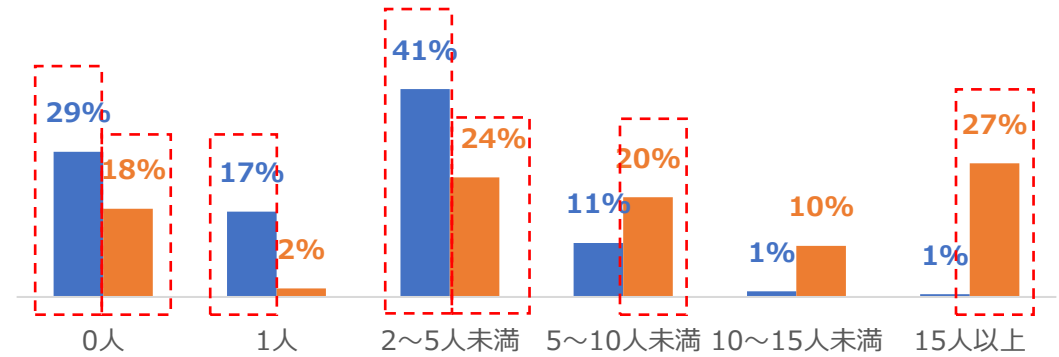
管理部門スタッフ

(事務・経理・広報など)



保護活動スタッフ

(犬猫の世話・預かり・搬送・譲渡活動全般など)



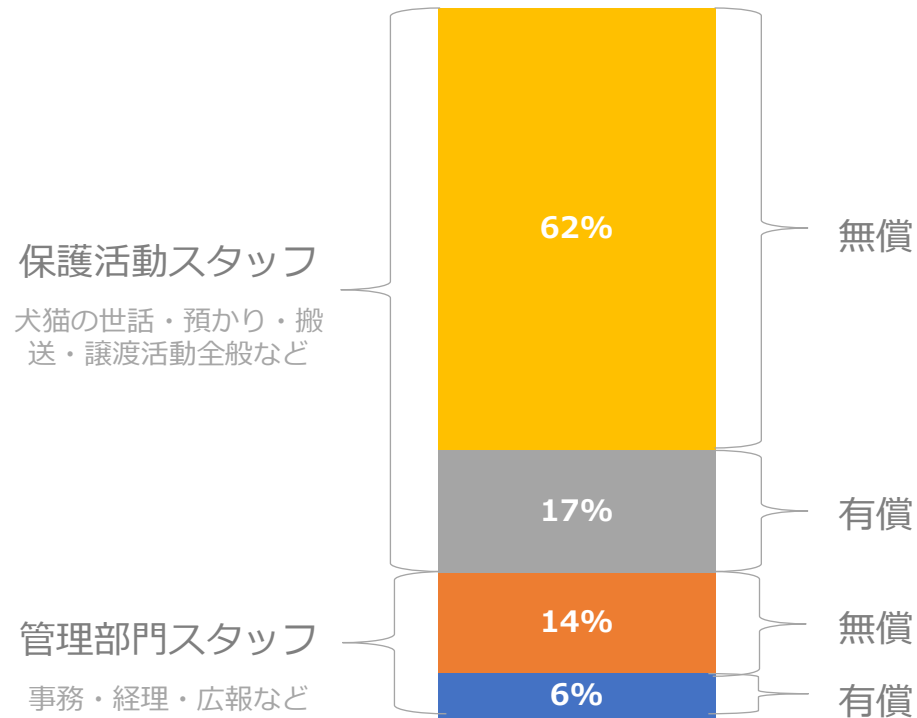
保護団体数ベース (n : 176)

保護活動団体の現状：スタッフ人数

- スタッフ人数は2割が管理部門、8割が保護活動に従事
- 保護活動・管理部門合わせて無償スタッフ割合は76%を占め、団体活動を支えている

団体に関わっている方の人数を教えてください

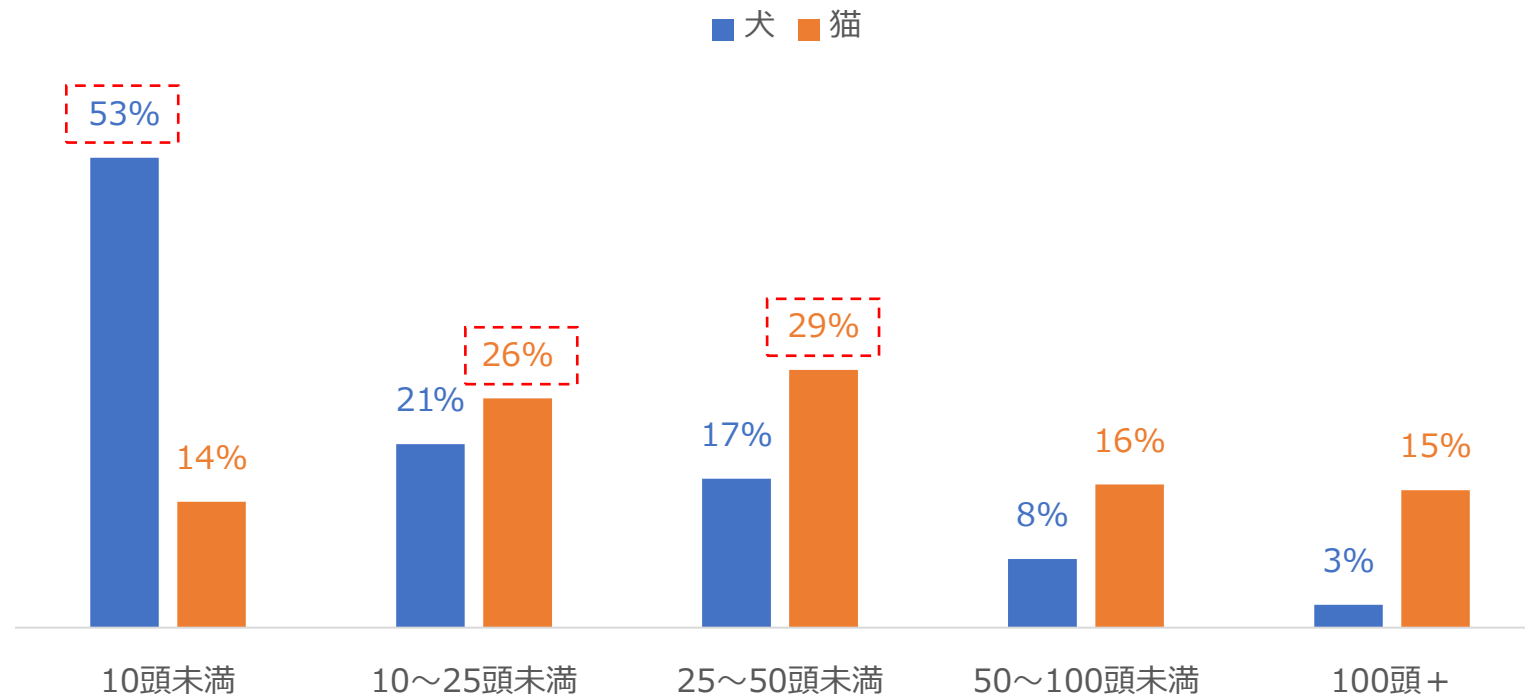
※管理部門と保護活動いずれも対応している場合は主な役割のほうを選択
 ※理事・監事は含まない



保護活動団体の現状：保護頭数

- 犬の保護頭数「10頭未満」の団体が53%、猫は「10~50頭未満」の団体が55%を占める
- 猫の保護団体は「50頭以上」の団体も一定あり、犬の保護団体よりも分散化が伺える

現在保護している頭数を教えてください

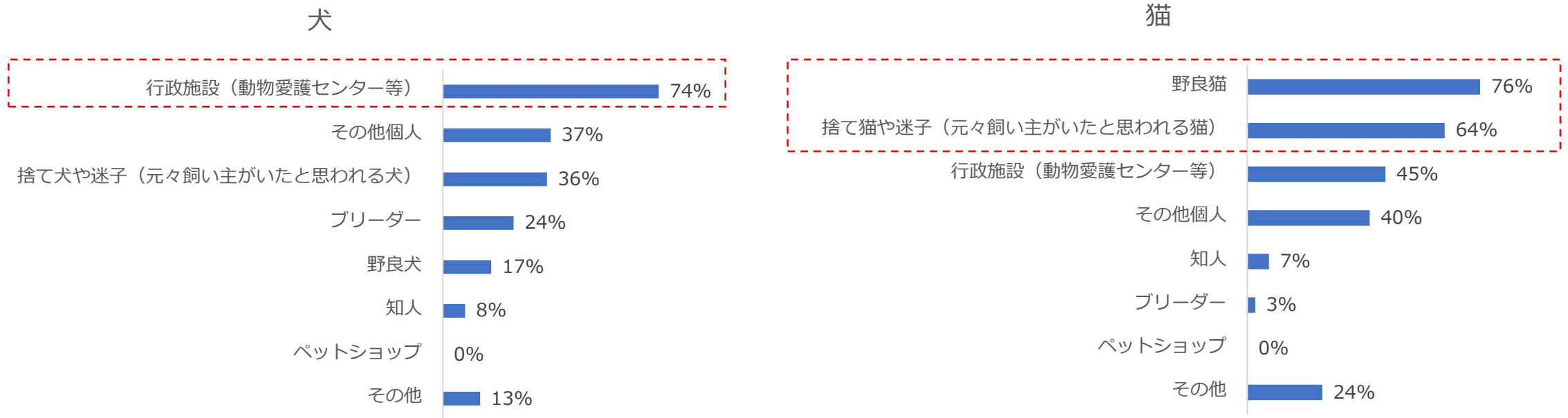


保護団体数ベース (n : 犬 = 78 猫 = 156)

保護活動団体の現状：保護経路

- 犬は「行政施設（動物愛護センター等）」からの保護が大多数（74%）
- 猫は「野良猫」と「捨て猫や迷子（元々飼い主がいたと思われる猫）」が主たる経路

現在保護している犬猫の主な保護経路の上位3つを教えてください



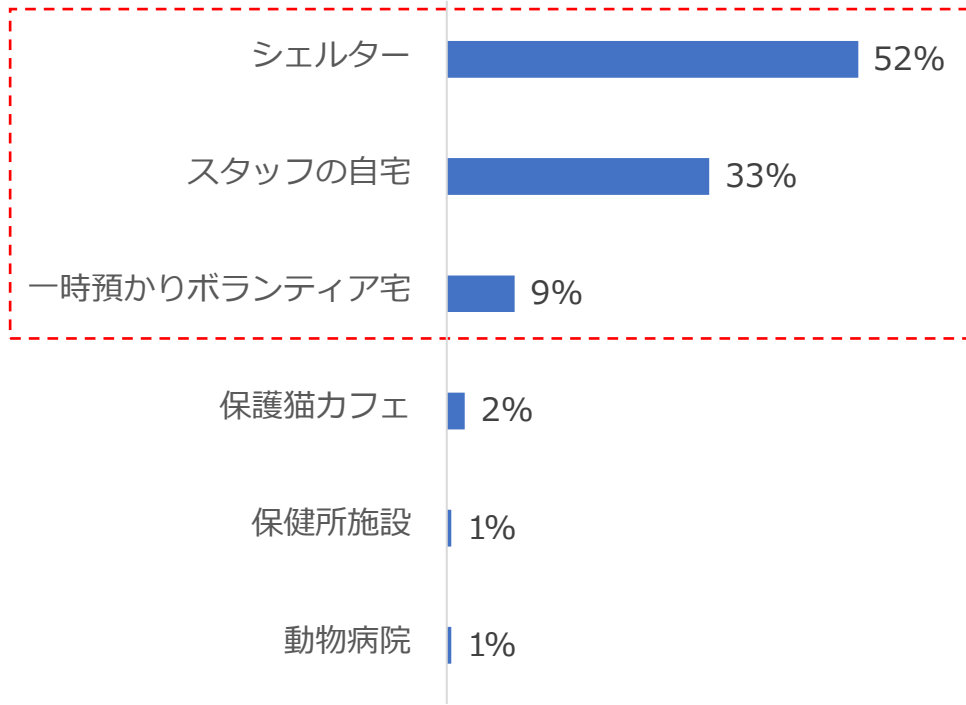
その他回答：
 犬・・・全国の他団体からの要請、飼育崩壊、ブリーダーが運営している保護団体の譲渡犬
 猫・・・全国の他団体からの要請、飼育崩壊、能登被災地、動物病院

保護団体数ベース（n：犬=78 猫=156）

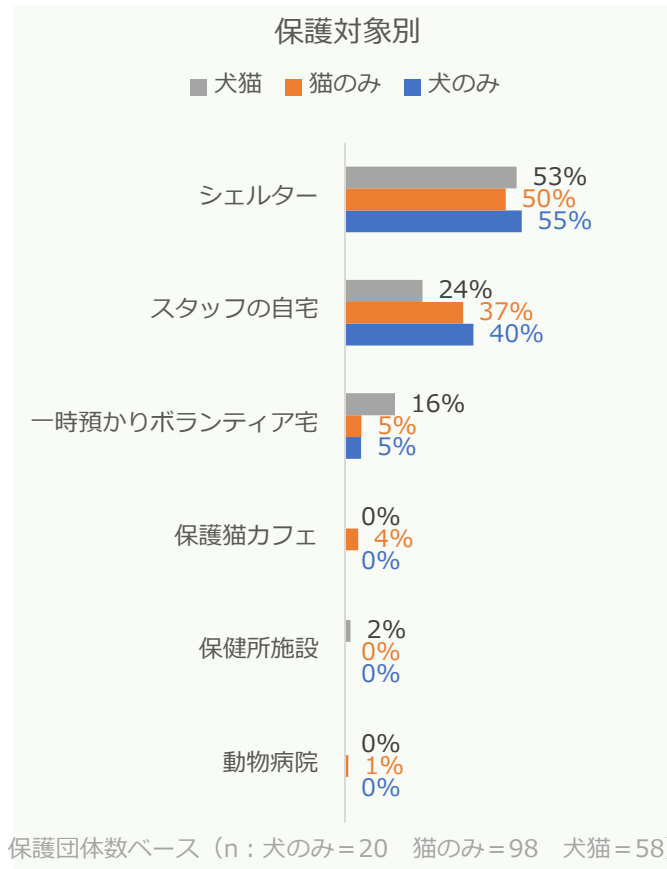
保護活動団体の現状：保護施設

- 保護施設として多いのは「シェルター（52%）」と「スタッフの自宅（33%）」「一時預かりボランティア宅（9%）」
- 団体規模が大きいほど「シェルター」、小さいほど「スタッフの自宅」が欠かせない施設

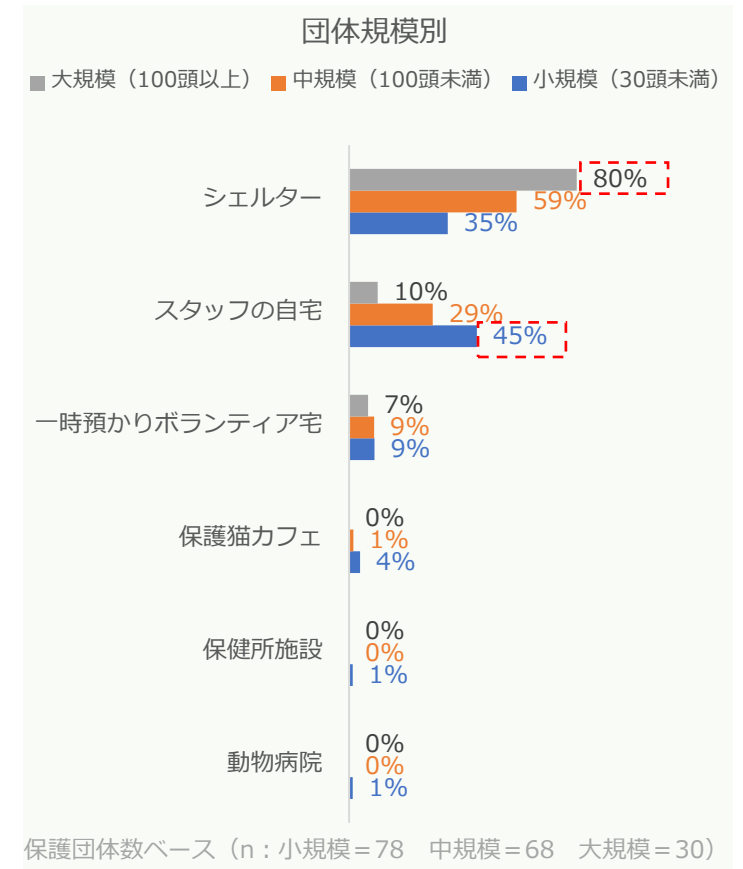
メインの保護施設の種類をひとつ教えてください



保護団体数ベース（n：176）



保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）

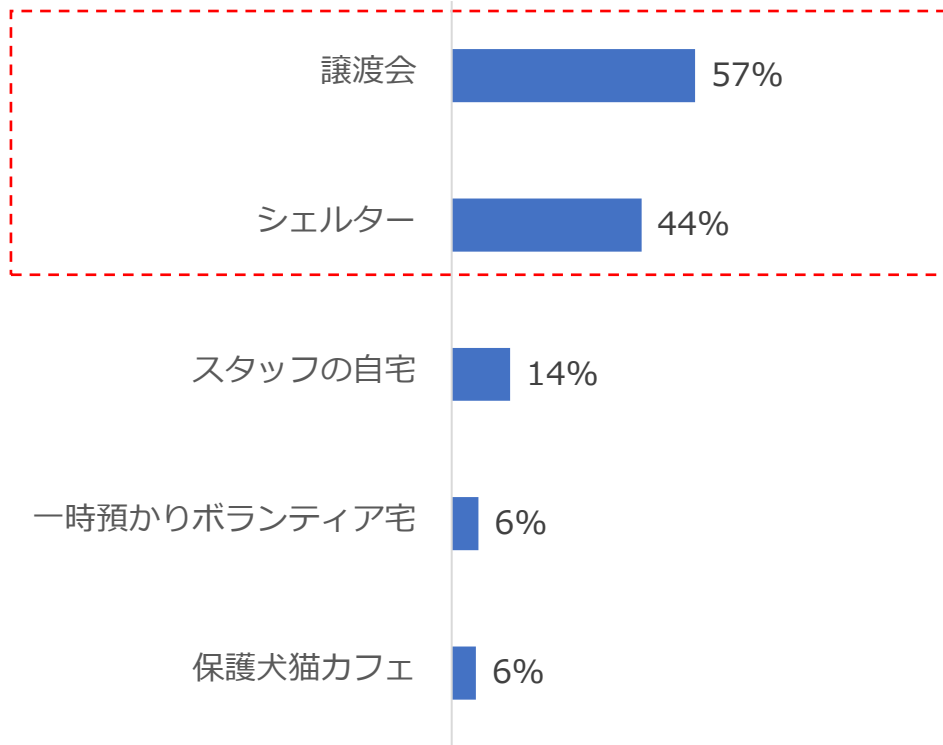


保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

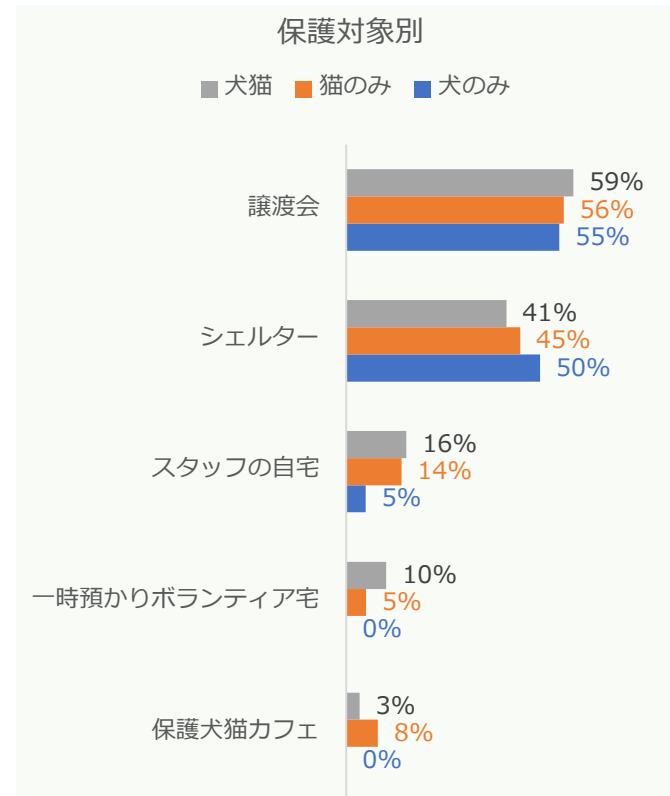
保護活動団体の現状：譲渡経路

- 主な譲渡経路としては「譲渡会（57%）」と「シェルター（44%）」の二通り
- 団体規模が大きいほどこれらの譲渡経路で活動が行われている

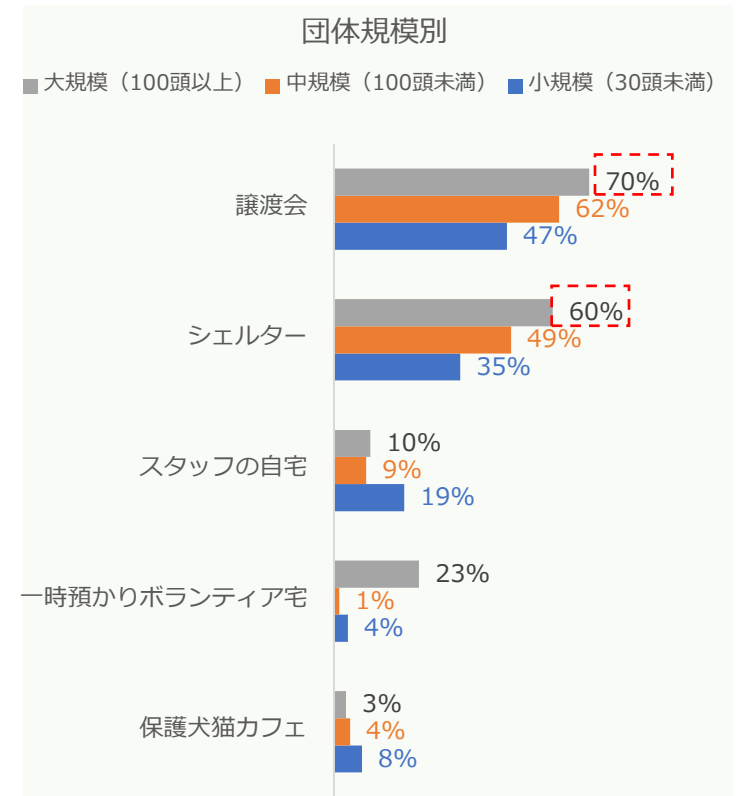
犬猫を譲渡する際の主な実施場所を教えてください（複数回答）



保護団体数ベース（n：176）



保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）

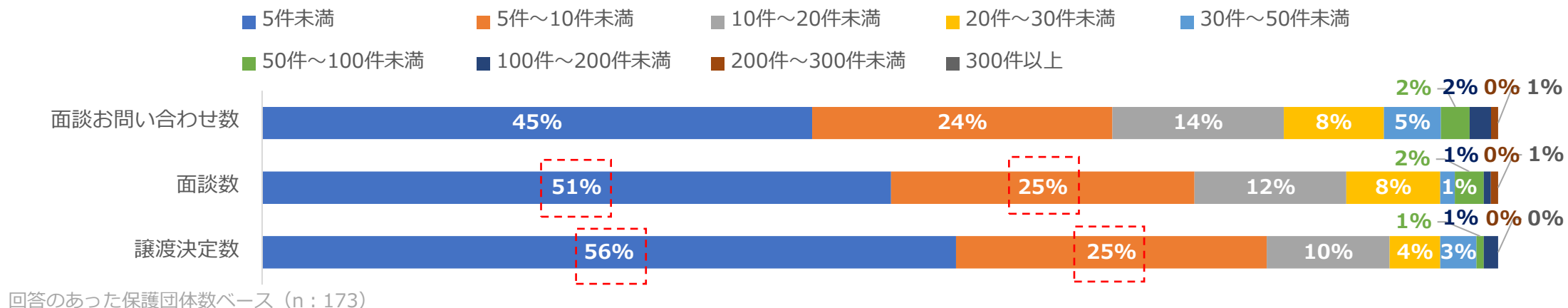


保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

保護活動団体の現状：面談・譲渡数

- 面談数・譲渡決定数が「毎月5件未満」の団体が過半数、「毎月10件未満」では約8割
- 団体規模が小さい方が譲渡が決定する確率が高い傾向

迎え主（新しい飼い主）候補からの面談お問い合わせ数・面談数・譲渡決定数の「月間平均」を教えてください



団体規模別

団体規模	面談お問い合わせ数 (平均)	面談数 (平均)		譲渡決定数 (平均)	
		通過率*	通過率**		
小規模 (30頭未満)	8.2	7.0	85%	7.2	100%
中規模 (100頭未満)	14.2	11.5	81%	6.4	55%
大規模 (100頭以上)	31.2	21.0	67%	19.0	90%
全体	15	11	77%	9	80%

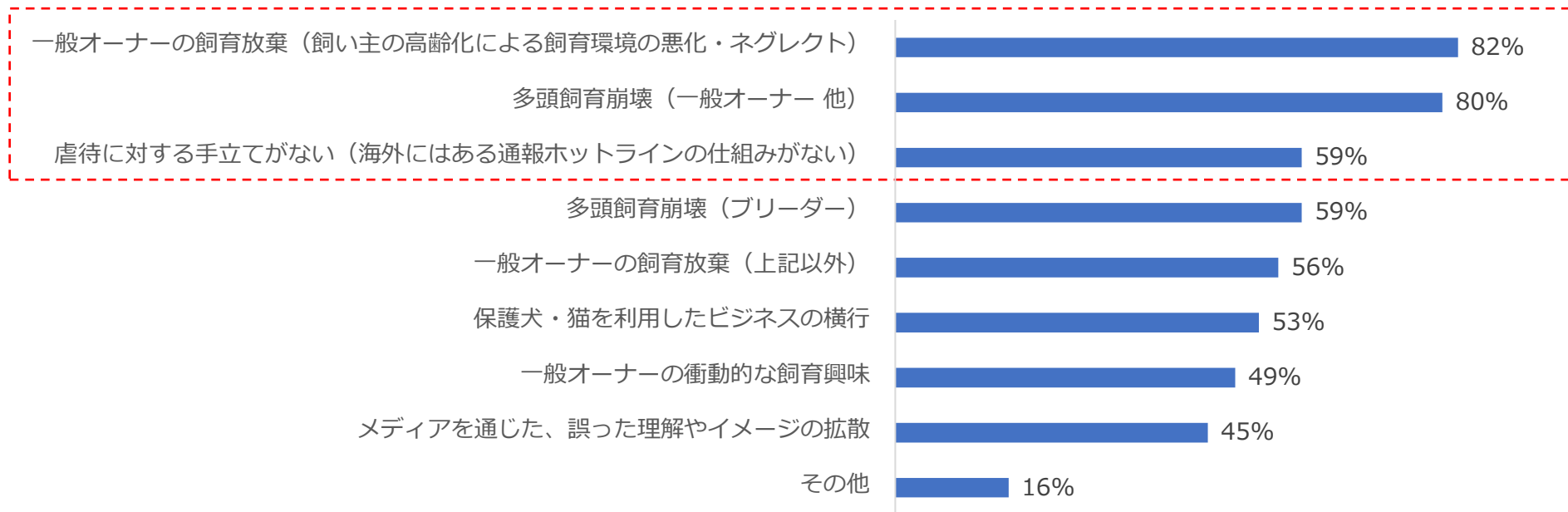
保護団体数ベース (n : 小規模 = 78 中規模 = 68 大規模 = 30)

*面談数 ÷ 面談お問い合わせ数 **譲渡決定数 ÷ 面談数

保護活動団体の意識：動物福祉

- 特に懸念が示されたのが「一般オーナーの飼育放棄」と「一般オーナーの多頭飼育崩壊」
- 虐待に関しても保護活動団体が直面することが多い問題のひとつと捉えられる

動物福祉に関して感じている課題を教えてください（複数回答）



その他回答：

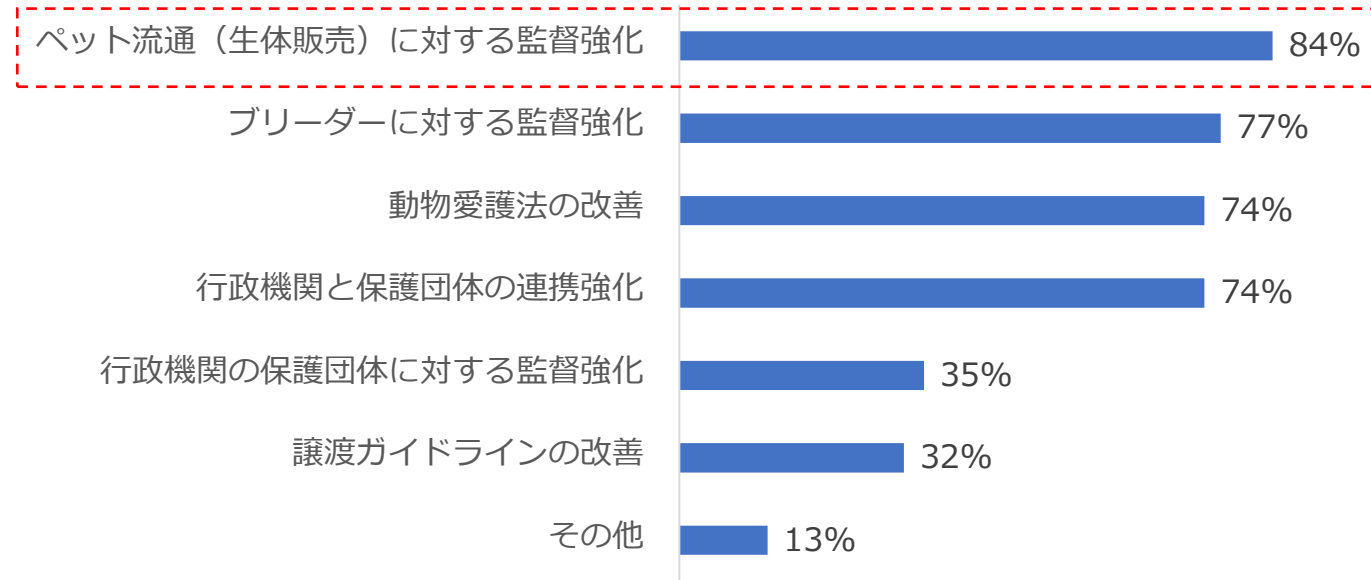
- 人の福祉との連携
- 虐待の定義がない
- 犬猫飼養を行うオーナーの知識不足(動愛法、該当動物の生態学的知識)
- 動物福祉が動物の為でなく人間のためになっていること
- 芸能人の保護活動がキレイな場面しか拡散しないためボランティアさんが長続きしない

保護団体数ベース（n：176）

保護活動団体の意識：法律・制度

- 「ペット流通（生体販売）」が特に意識されていることが確認された
- 下段記載の「その他回答」では現状を変える新しい制度が期待されている

法律や制度に対する要望を教えてください（複数回答）



その他回答：

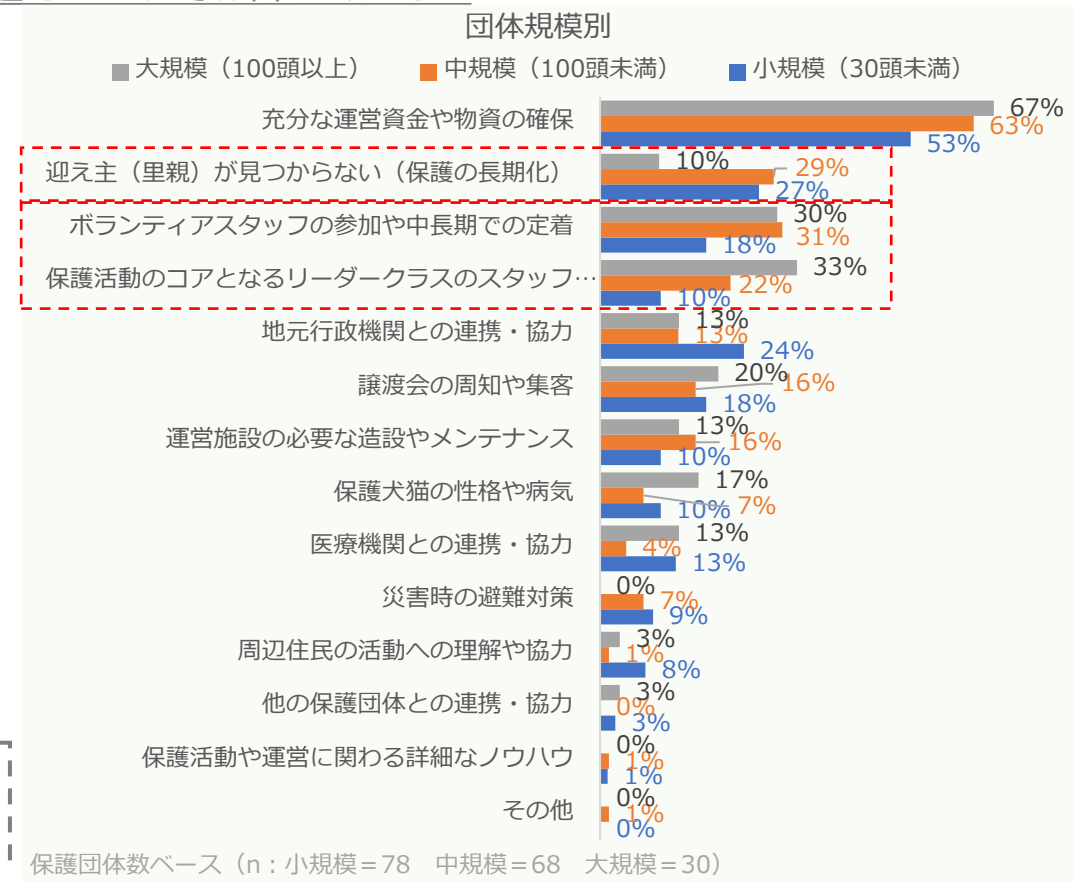
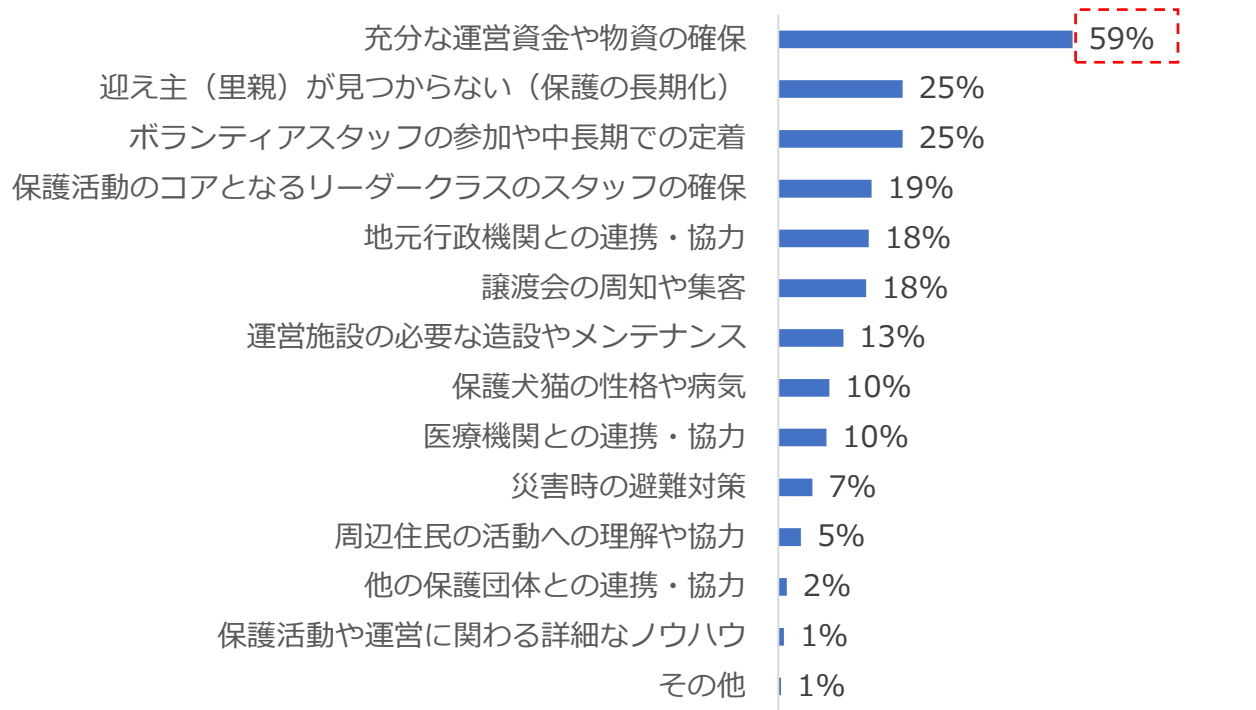
- 医療、心理カウンセリング学の愛護活動への応用
- アニマルポリス
- 緊急保護が必要な犬猫の一時飼養場所の確保（行政主体）
- 動物愛護管理法がまだまだ警察に周知されていない、専用の窓口が必要
- 動物愛護に関する教育機関での生涯学習
- ブリーダー免許制導入

保護団体数ベース（n：176）

保護活動団体の意識：団体運営

- 「十分な運営資金や物資の確保」に課題感が集中し、団体規模が大きいほど傾向が強まる
- 団体規模が小さい方が迎え主探しに苦慮している一方、大きい方がスタッフ探しに課題観を抱える傾向

団体活動や運営に関して感じている課題を3つまでお答えください



その他回答：
 ・ 空輸などのボランティア
 ・ 動物愛護に取り組む団体、個人の価値観の違い等から連携が難しく対立も少なくない

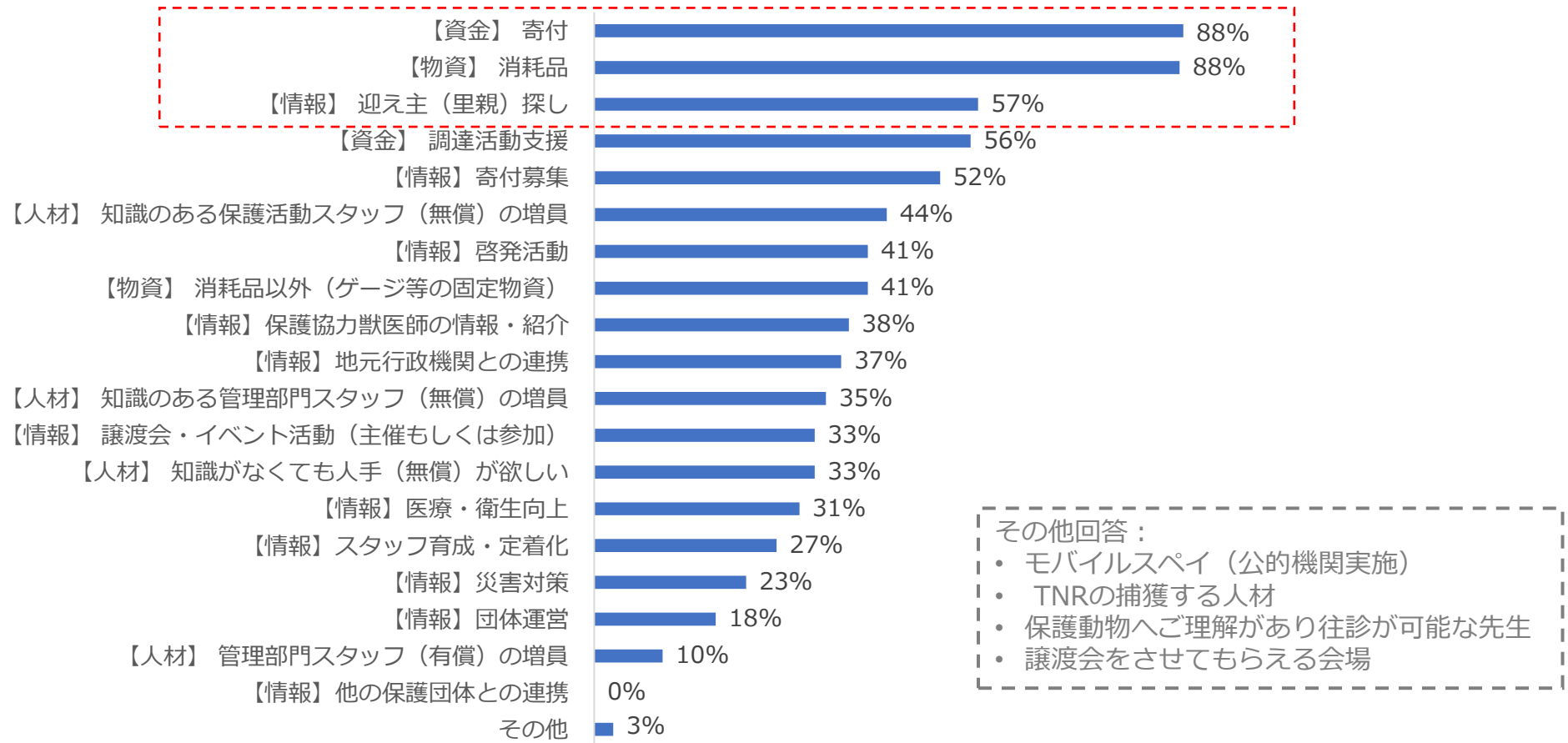
保護団体数ベース（n：176）

保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

保護活動団体の意識：受きたい支援

- 「寄付」と「消耗品」の支援における需要が突出（88%）、次いで「迎え主（新しい飼い主）探し」も大多数の団体が要望（57%）していることから、カネ・モノ・情報と幅広い支援が求められている

どのような支援を受けたいと思われますか（複数回答）

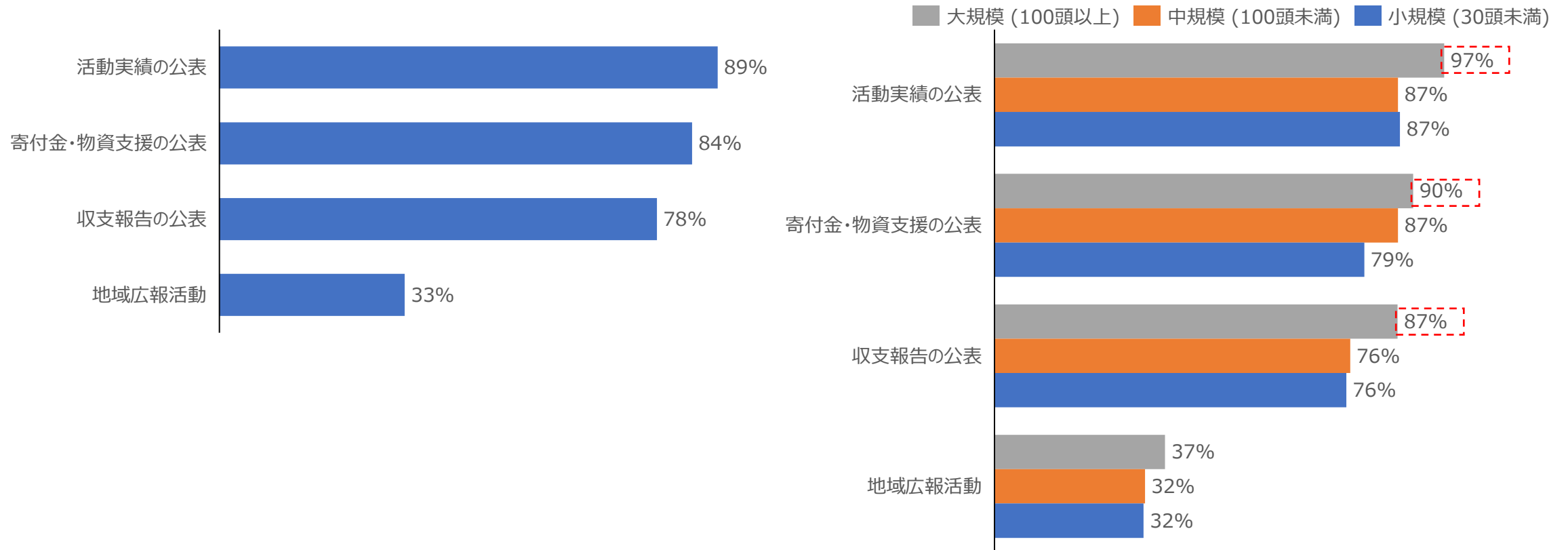


保護団体数ベース（n：176）

保護活動の透明性確保

- 大きい保護施設は透明性を確保するためにより力を入れている傾向

保護活動の透明性を確保するためにやっている取り組みはありますか（複数回答）



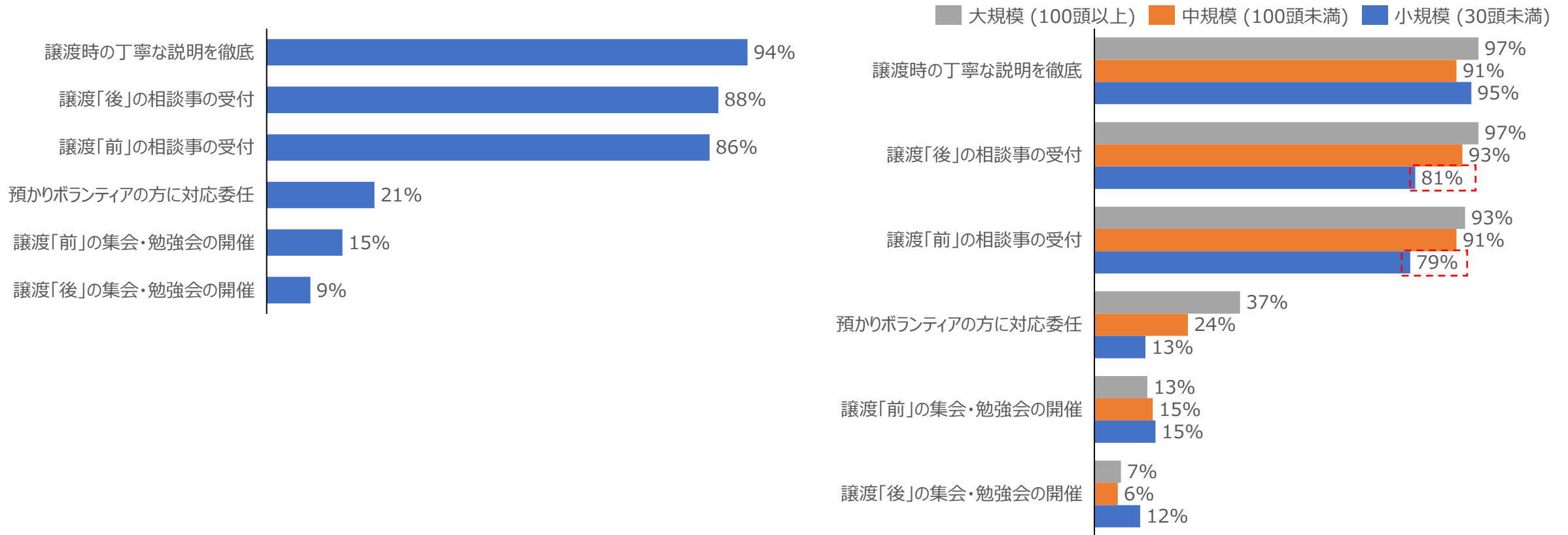
保護団体数ベース (n : 176)

保護団体数ベース (n : 小規模 = 78 中規模 = 68 大規模 = 30)

飼い主に対する教育や支援

- 譲渡時の説明は施設規模に関わらず高いが、小さい施設では譲渡「前後」の相談事の受付が割合が低い傾向

飼い主に対する教育や支援で行っている取り組みはありますか（複数回答）



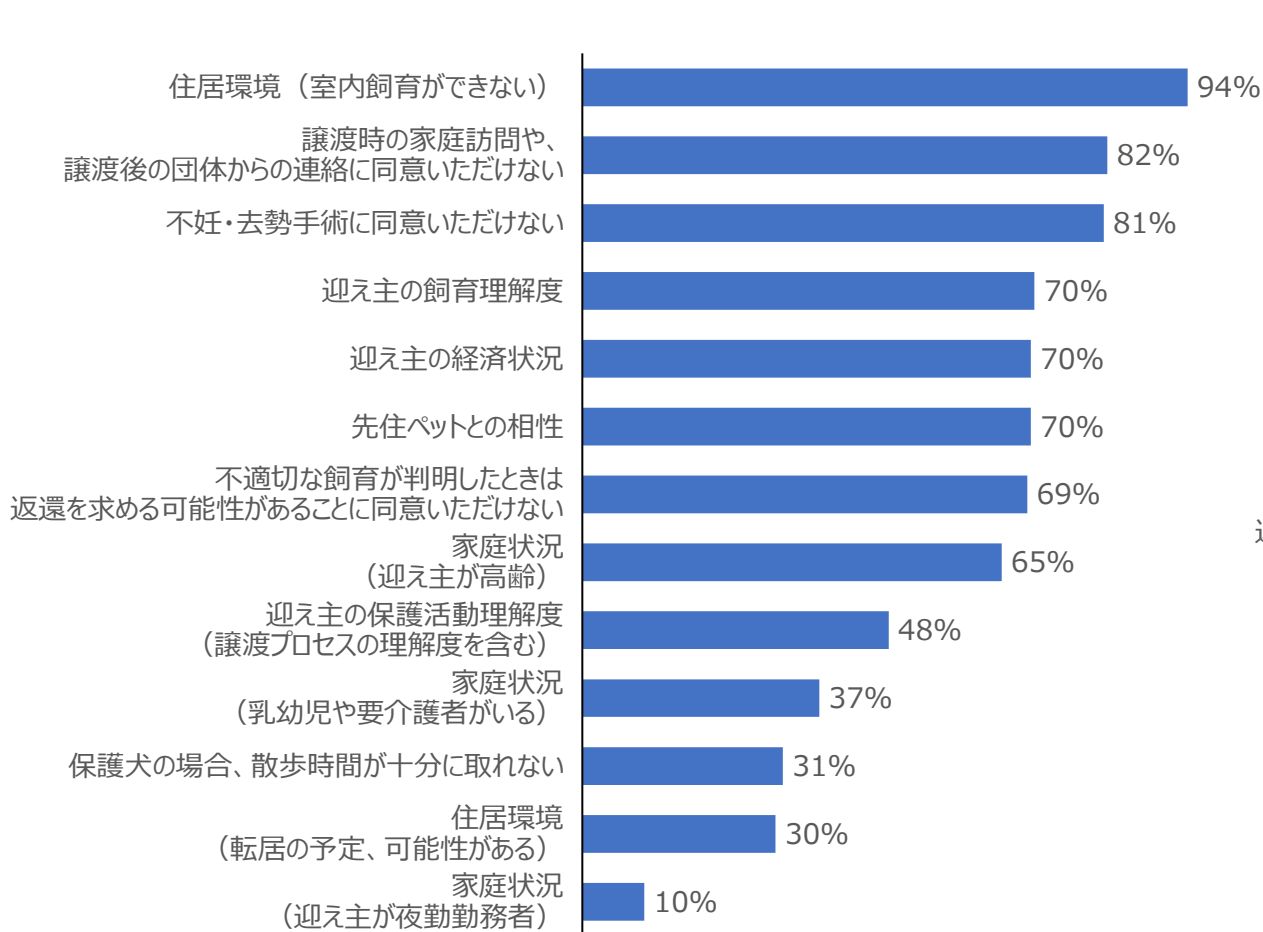
保護団体数ベース（n：176）

保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

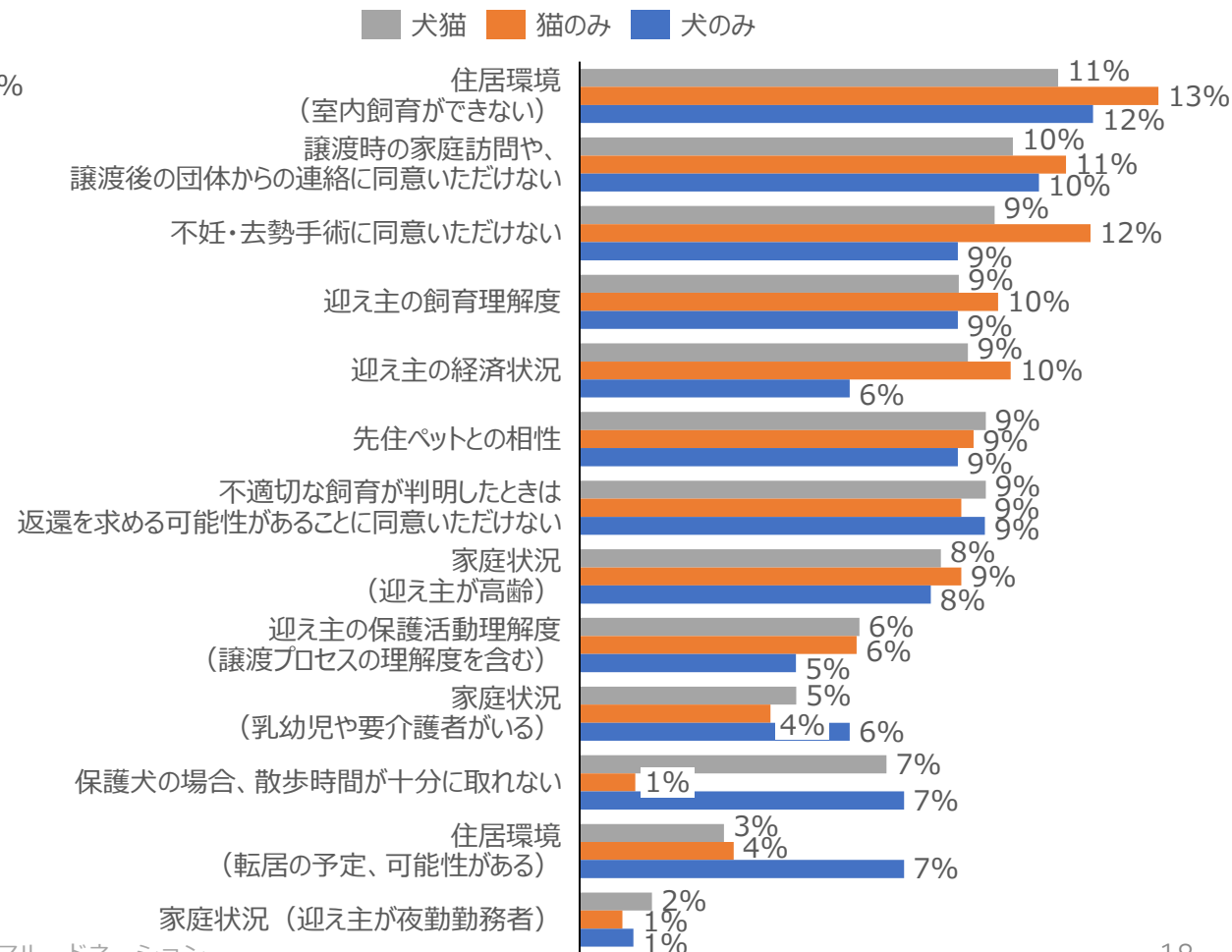
譲渡不可と判断する主なポイント

- 猫のみを保護している団体では特に住居環境や去勢に関する同意、犬と猫の両方を保護している団体ではそれ以外に散歩の時間や転居に関することが判断ポイントになりえた

面談する際に譲渡不可と判断する主なポイントは何ですか（複数回答）



保護団体数ベース（n：176）



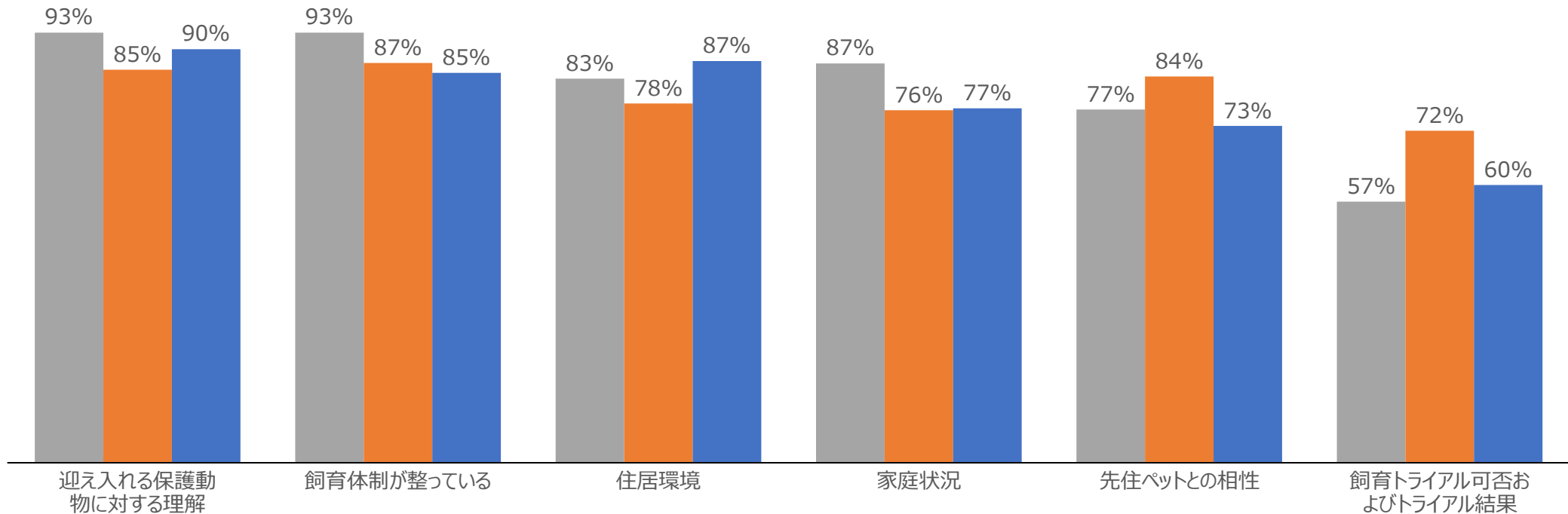
保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）

譲渡を決定する際の主なポイント

- 施設サイズ関わらず、保護動物への理解と飼育環境が重要な譲渡を決めるポイントである可能性

譲渡を決定する際の主なポイントは何ですか（複数回答）

■ 大規模 (100頭以上) ■ 中規模 (100頭未満) ■ 小規模 (30頭未満)

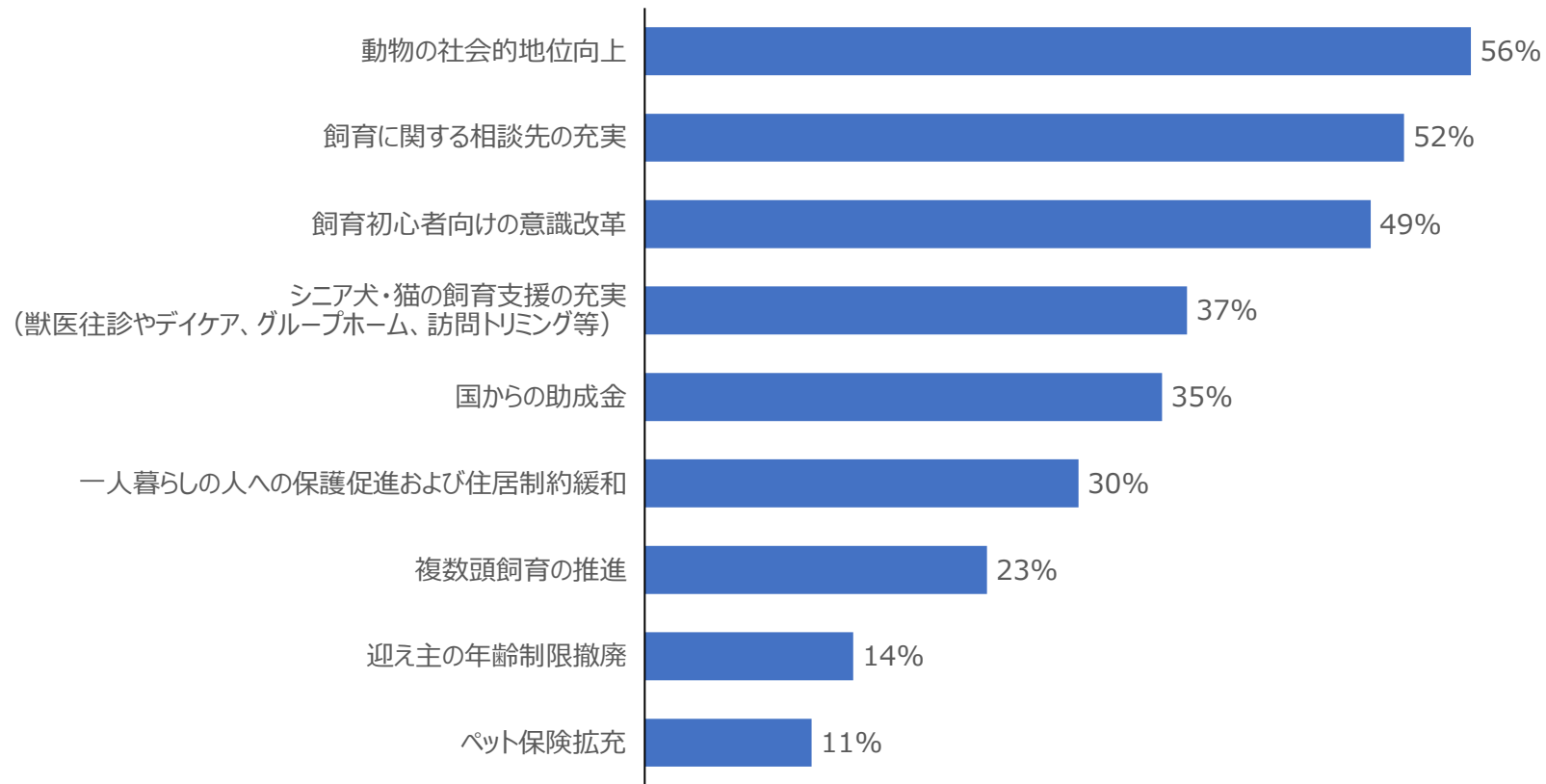


保護団体数ベース (n: 小規模=78 中規模=68 大規模=30)

譲渡数を増やすためには？

- 譲渡数を増やすために重要だと思われる点として“動物の社会的地位向上”が最も選ばれたとともに、実際には飼育相談先の拡充や初心者意識改革が望まれている様子

譲渡数を増やすために必要な対策について、何が重要だと思われますか（複数回答）

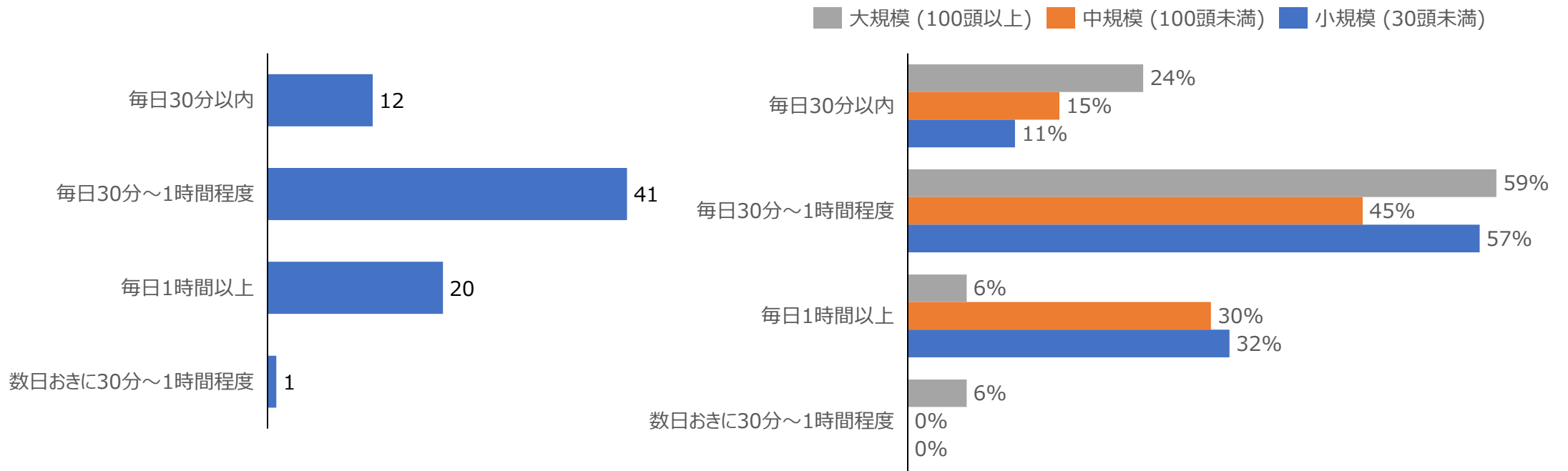


保護団体数ベース (n : 176)

散歩にかけられる頻度と時間は？

- 中小規模の施設では散歩により時間をかけている傾向。大きい施設では1匹にかける時間が短い傾向がみられる

保護犬の場合、散歩にかけられる頻度と時間はどれくらいですか。健康な中型犬をご想定ください。

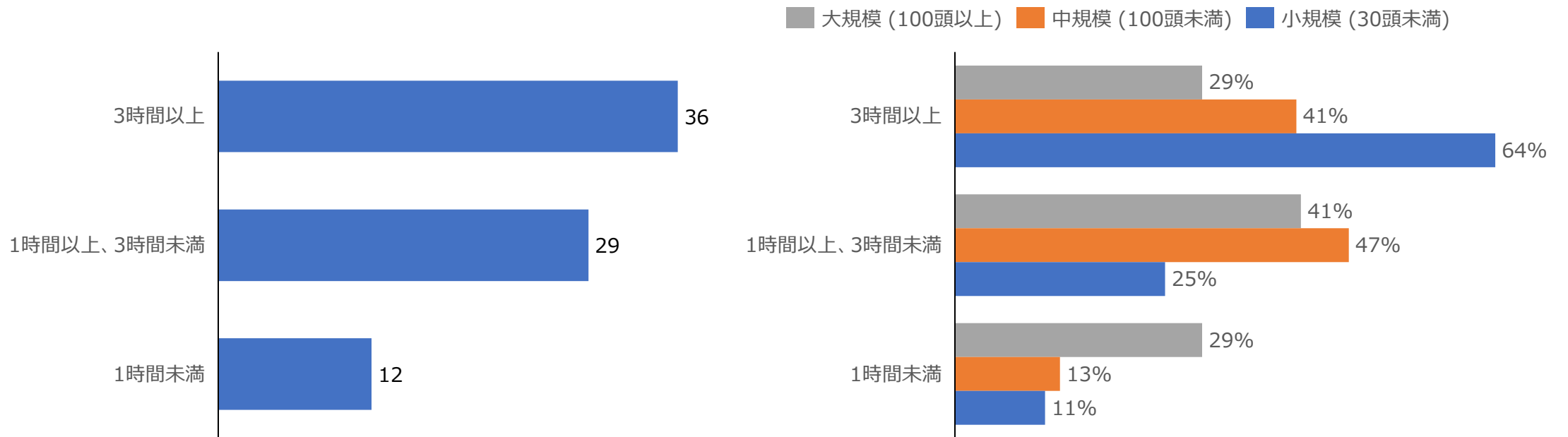


保護団体数ベース (n: 大規模 = 17 中規模 = 32 小規模 = 28)

保護犬と触れ合う時間は？

- 犬とのふれあい時間を3時間以上かけている施設が多数。大きい施設では1匹にかける時間が短い傾向がみられる

保護犬の場合、保護犬と触れ合う時間は1日どれくらいですか。
(就寝時を除く、健康な中型犬を想定ください)

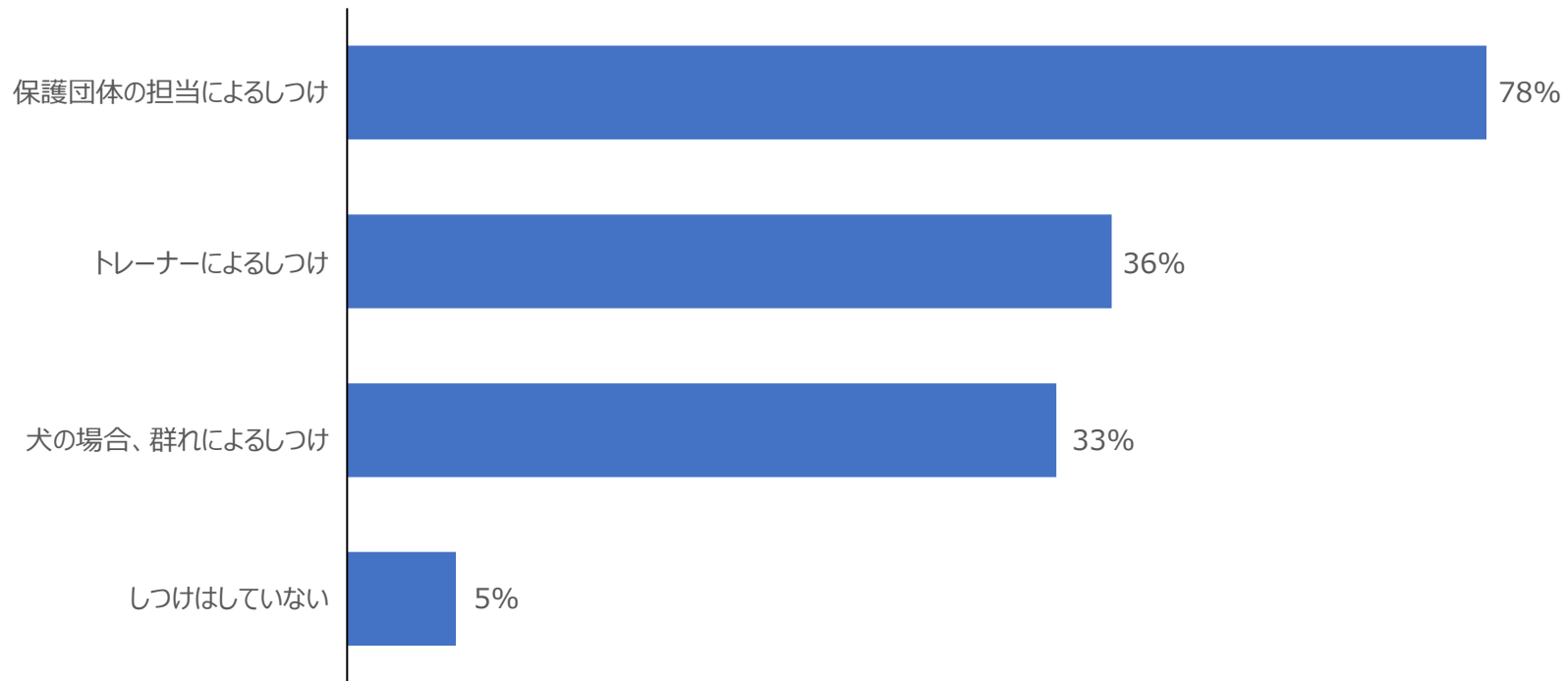


保護団体数ベース (n: 大規模 = 17 中規模 = 32 小規模 = 28)

保護犬のしつけ

- 犬を保護している約78%の団体では担当者によるしつけがなされており、トレーナーによるしつけも35%を超える。犬をしつける努力をしている団体の多さが伺える。

保護中のしつけはどのように対応していますか（複数回答）

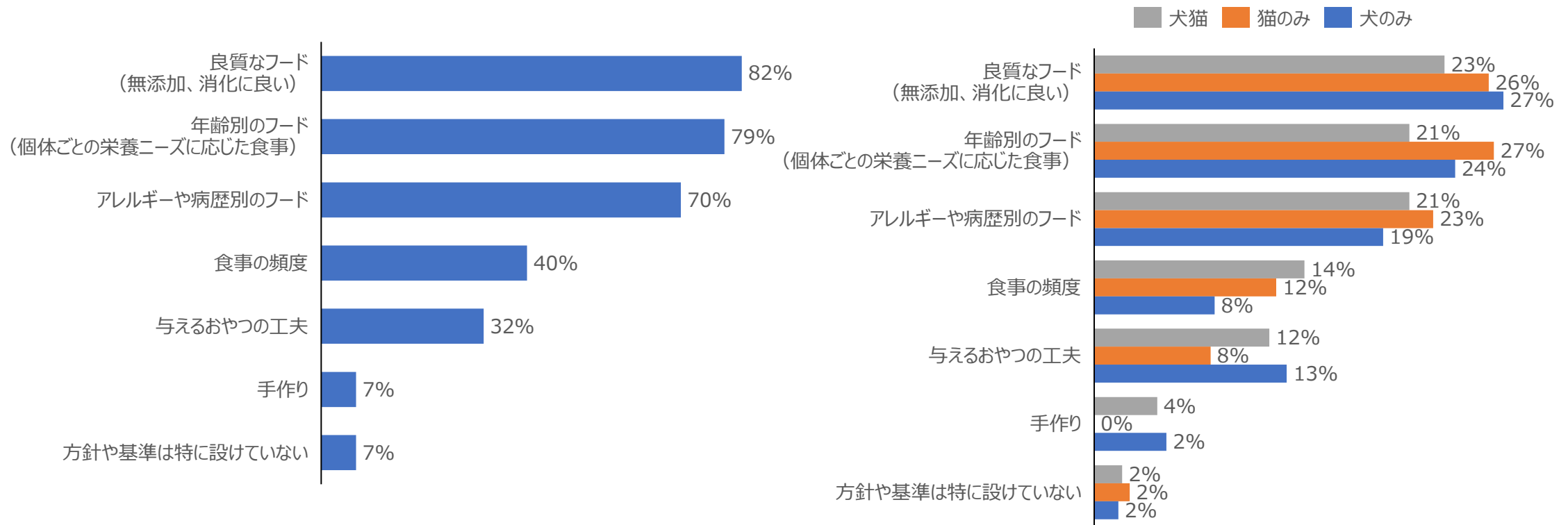


犬のみまたは犬猫保護団体（n：78）

保護している犬猫の栄養管理

- 良質なフード、年齢別、アレルギー別など、多くの保護団体は保護動物に寄り添った栄養管理を行なっていることが伺え、一部の団体では手作りの食事での栄養管理も行なっている

保護している犬猫の栄養管理に関してどのような方針や基準を設けていますか。（複数回答）



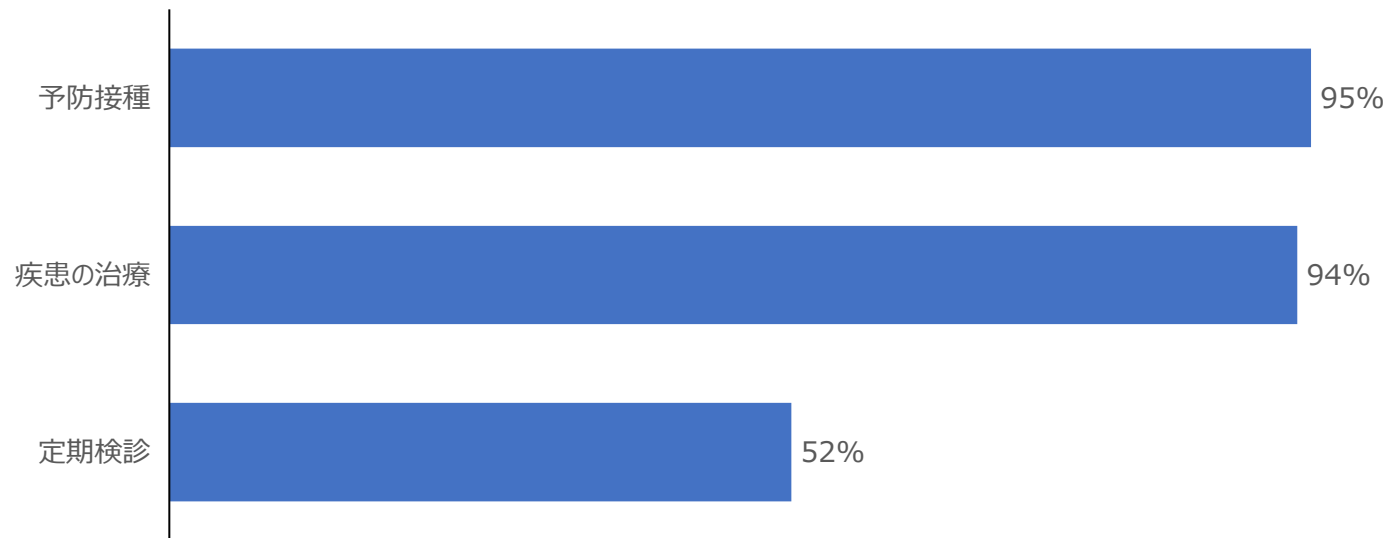
保護団体数ベース (n : 176)

保護団体数ベース (n : 犬のみ = 20 猫のみ = 98 犬猫 = 58)

保護している犬猫の医療ケア

- 約半数の保護団体が定期検診を行っているとともに、予防接種を行なっている団体は95%と全国平均の予防接種率約70%*と比べると25%以上高く、保護動物の健康を強く配慮していると示唆

保護している犬猫の医療ケアについて、どのような取り組みを行っていますか（複数回答）

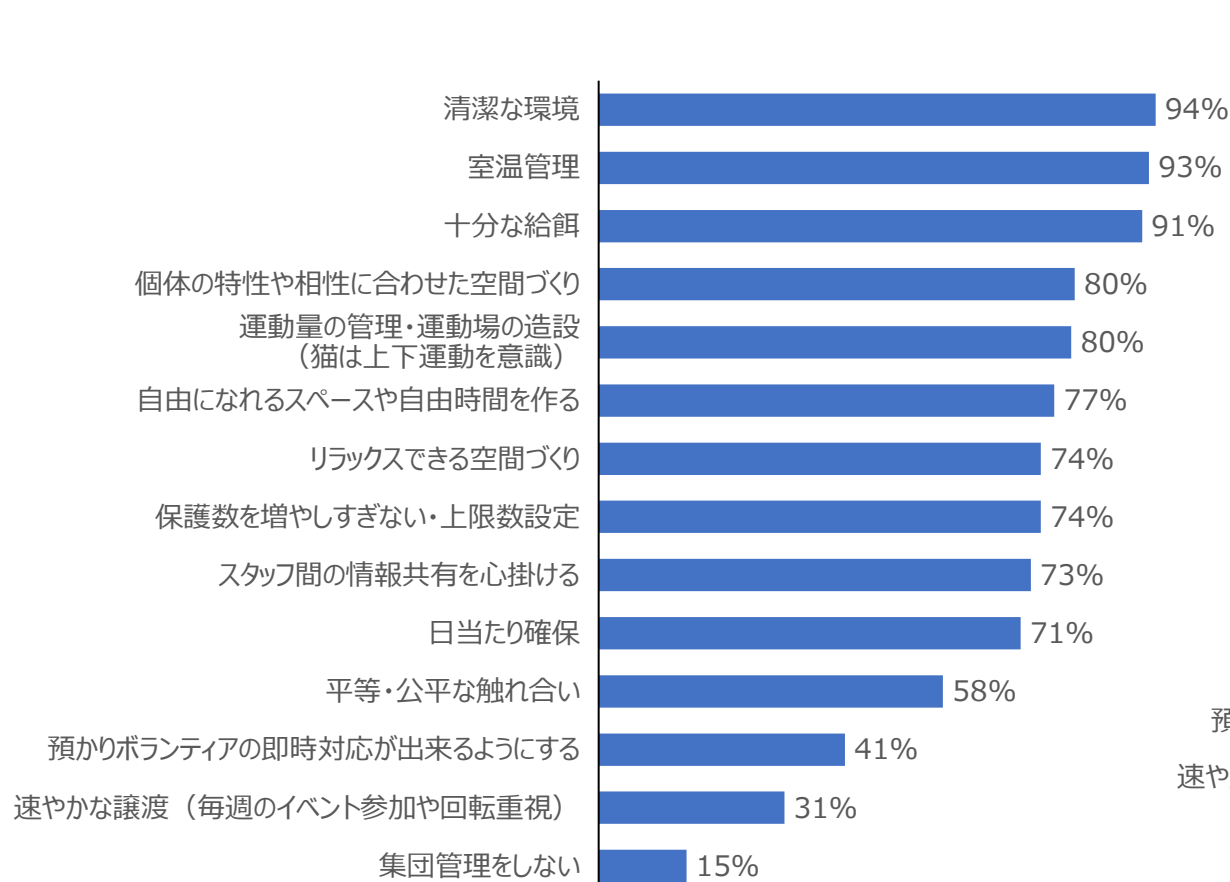


保護団体数ベース (n : 176)

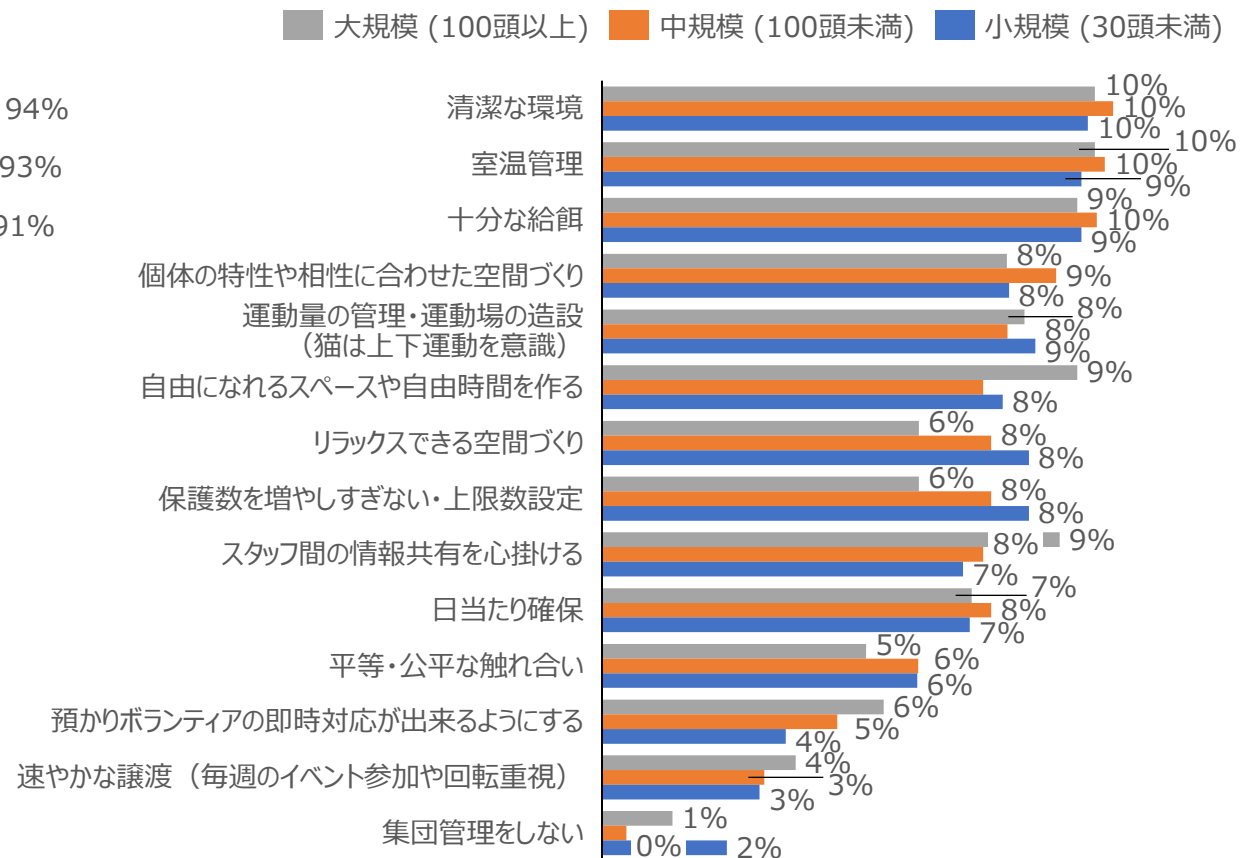
犬猫のストレス管理や心理的なケア

- 大きな施設では小さな施設よりも自由になれるスペースを作ること配慮している一方で小さい施設ではリラックスできる空間づくりを考慮している傾向

犬猫のストレス管理や心理的なケアについてどのような取り組みを行っていますか（複数回答）



保護団体数ベース（n：176）



保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

付属資料

保護活動団体の現状：スタッフ人数（団体規模別）

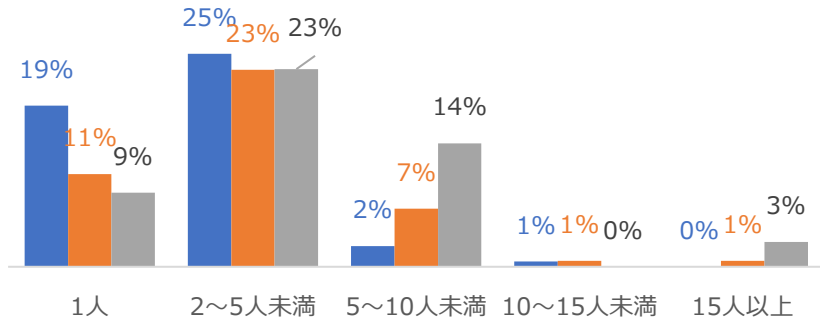
団体に関わっている方の人数を教えてください

※管理部門と保護活動いずれも対応している場合は主な役割のほうを選択
 ※理事・監事は含まない

■ 小規模（30頭未満） ■ 中規模（100頭未満） ■ 大規模（100頭以上）

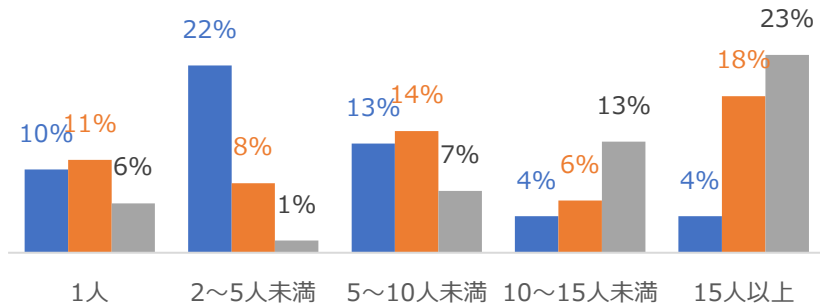
管理部門スタッフ

（事務・経理・広報など）



保護活動スタッフ

（犬猫の世話・預かり・搬送・譲渡活動全般など）



保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

有償・無償別

■ 有償 ■ 無償

管理部門スタッフ

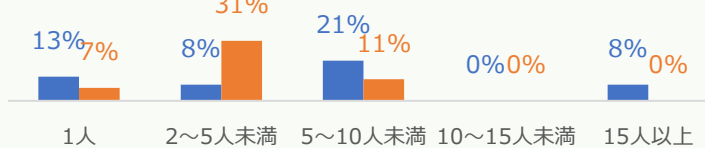
小規模（30頭未満）



中規模（100頭未満）

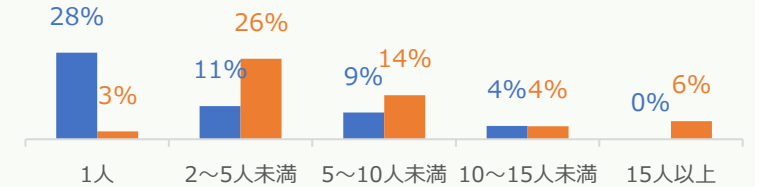


大規模（100頭以上）

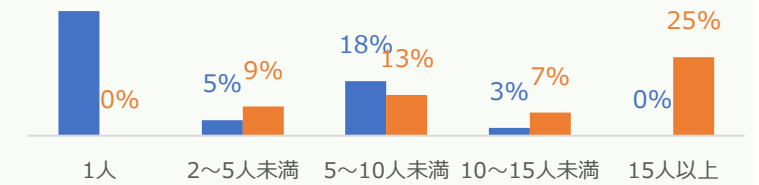


保護活動スタッフ

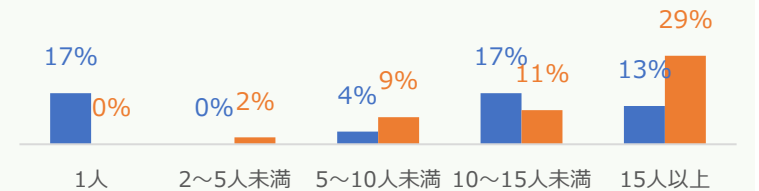
小規模（30頭未満）



中規模（100頭未満）



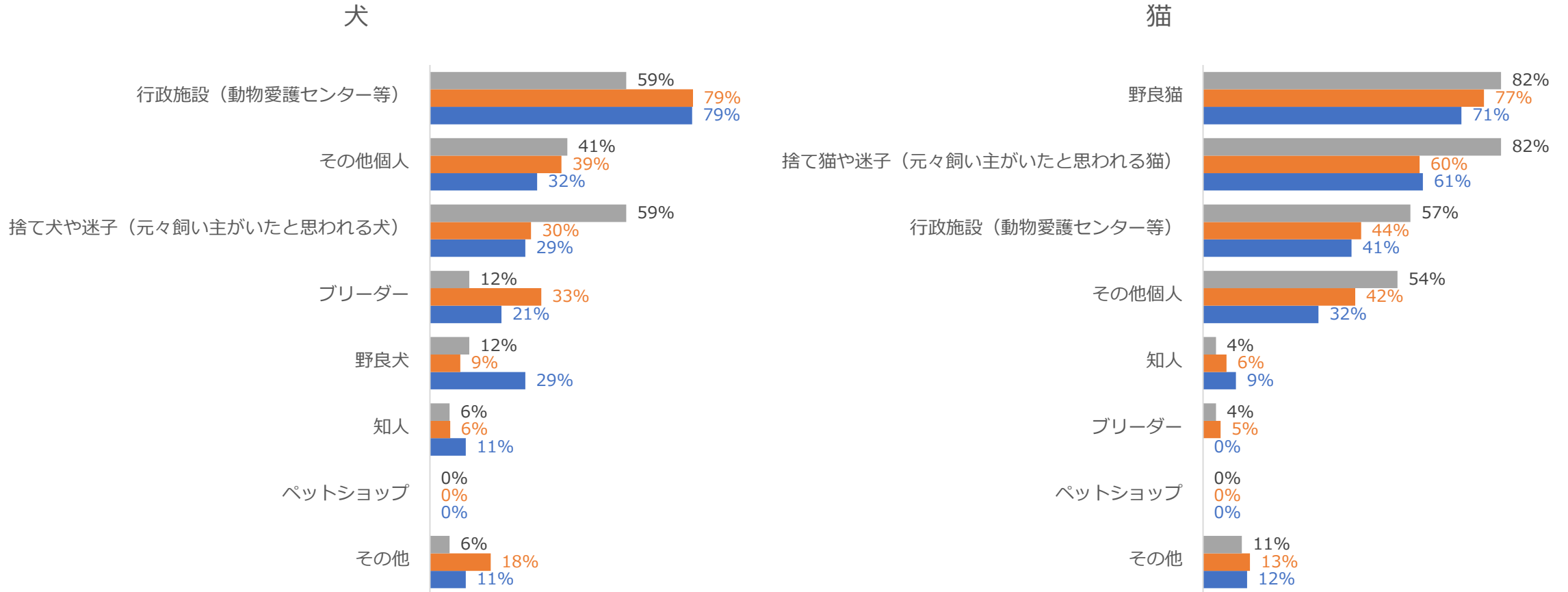
大規模（100頭以上）



保護活動団体の現状：保護経路（団体規模別）

現在保護している犬猫の主な保護経路の上位3つを教えてください

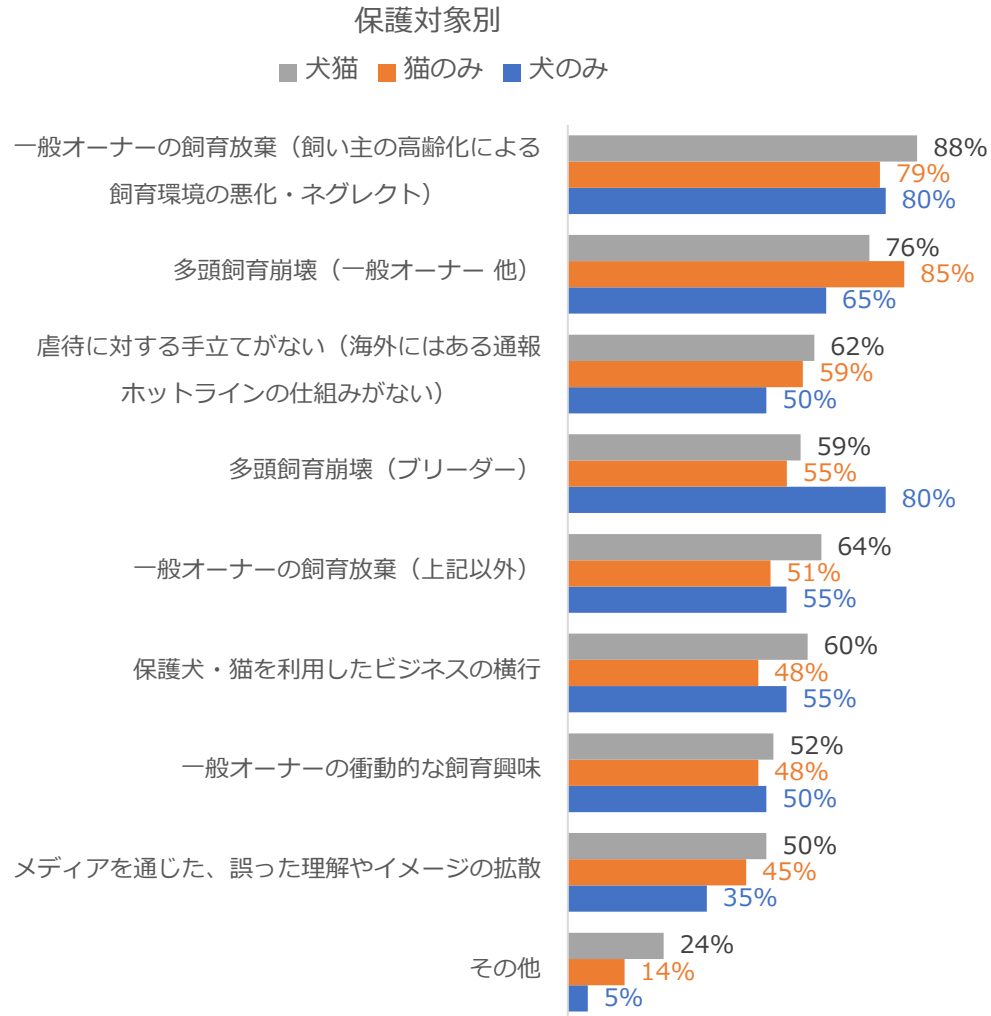
■ 大規模（100頭以上） ■ 中規模（100頭未満） ■ 小規模（30頭未満）



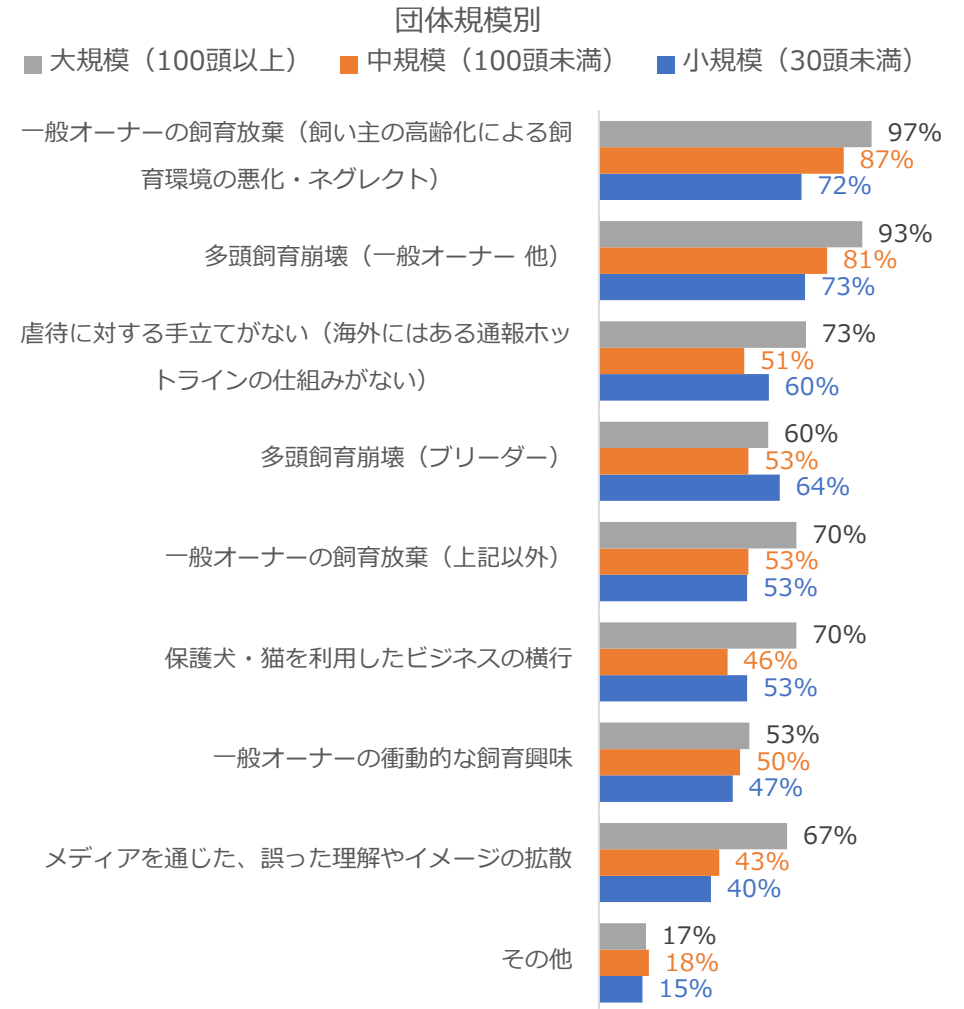
保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

保護活動団体の意識：動物福祉（保護対象・団体規模別）

動物福祉に関して感じている課題を教えてください（複数回答）



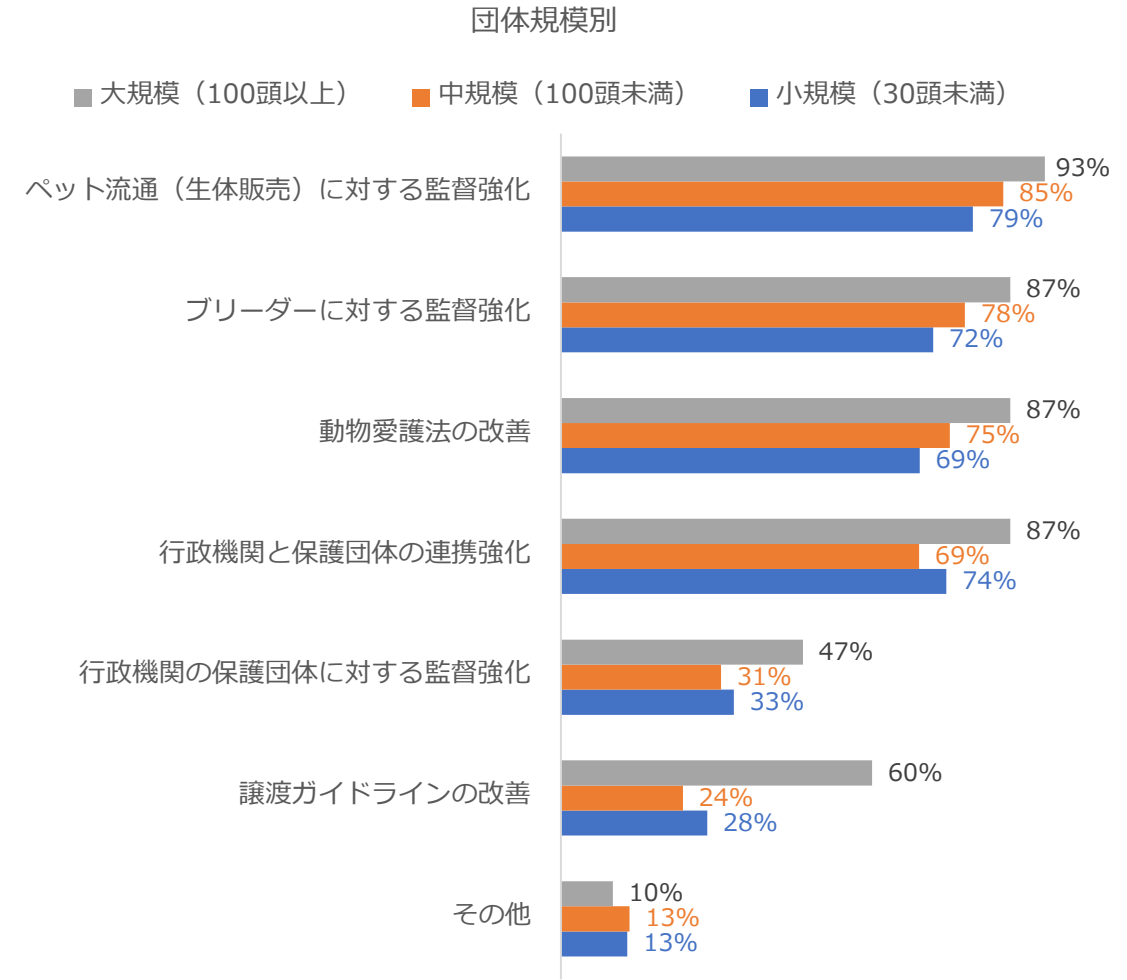
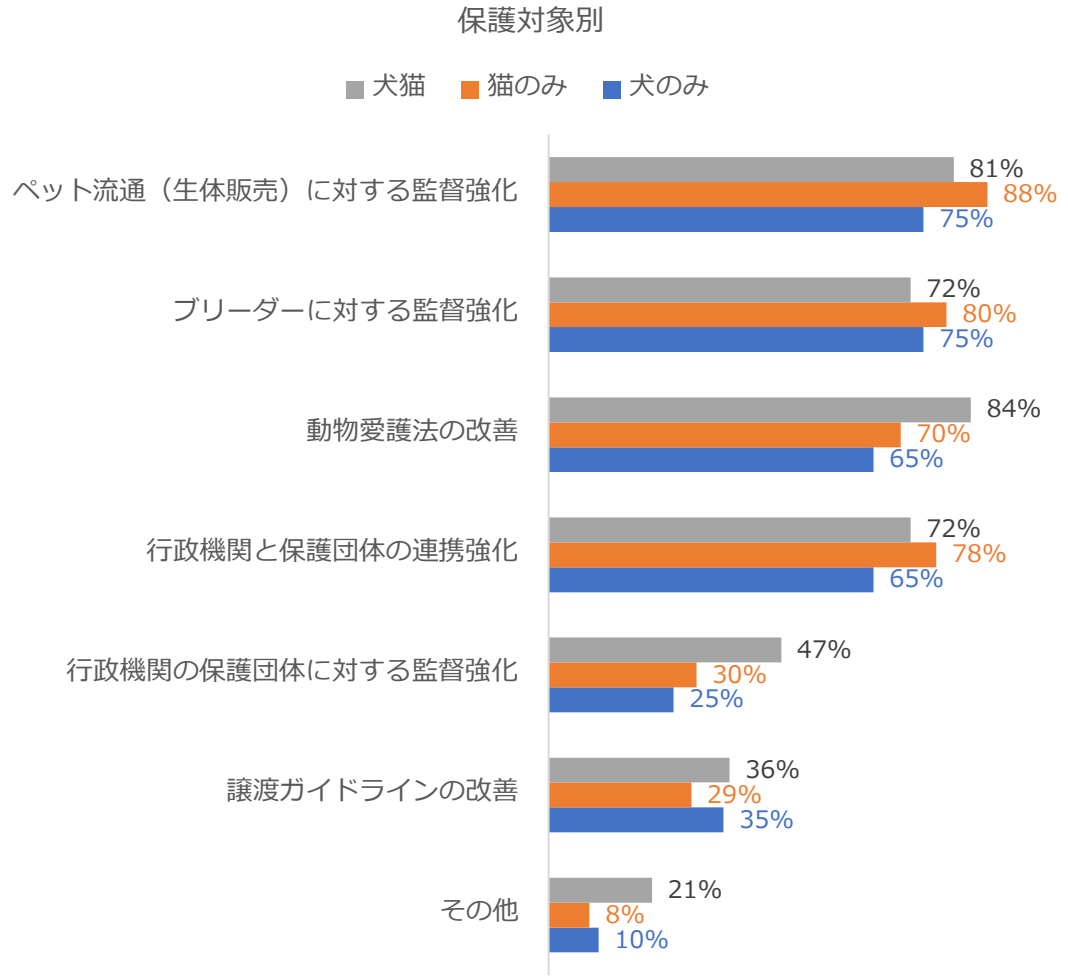
保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）



保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

保護活動団体の意識：法律・制度（保護対象・団体規模別）

法律や制度に対する要望を教えてください（複数回答）

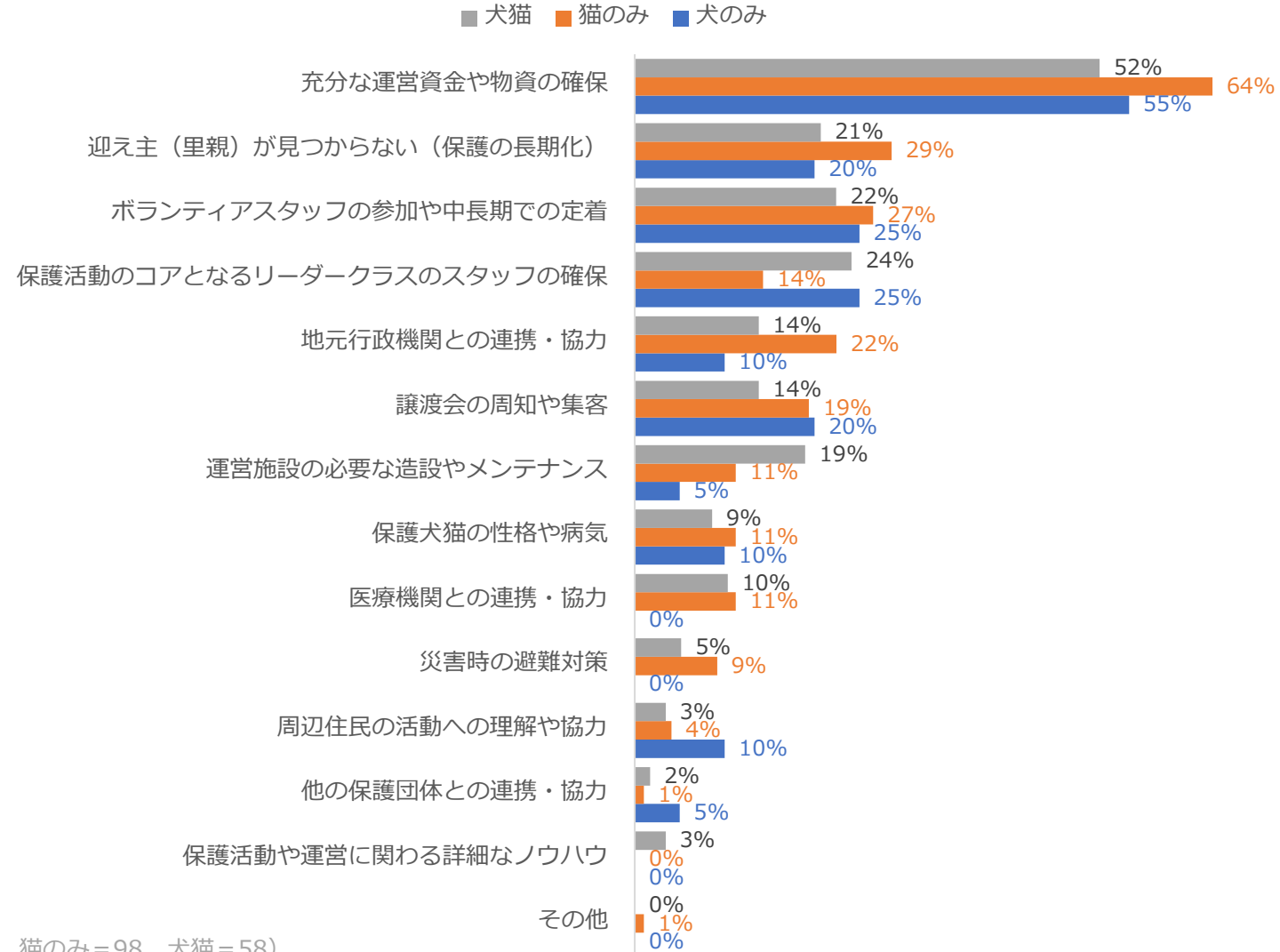


保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）

保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）

保護活動団体の意識：団体運営（保護対象別）

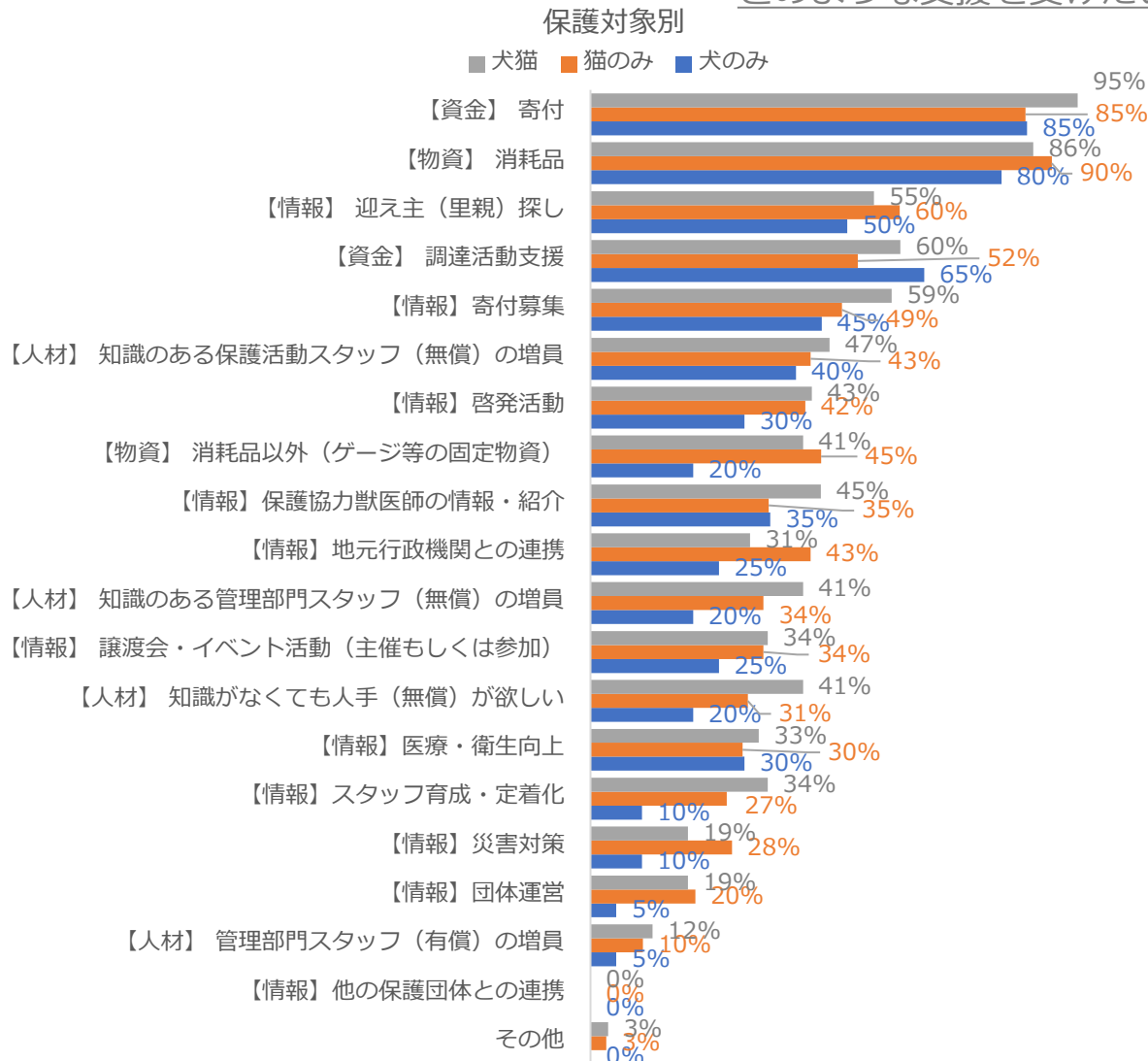
団体活動や運営に関して感じている課題を3つまでお答えください



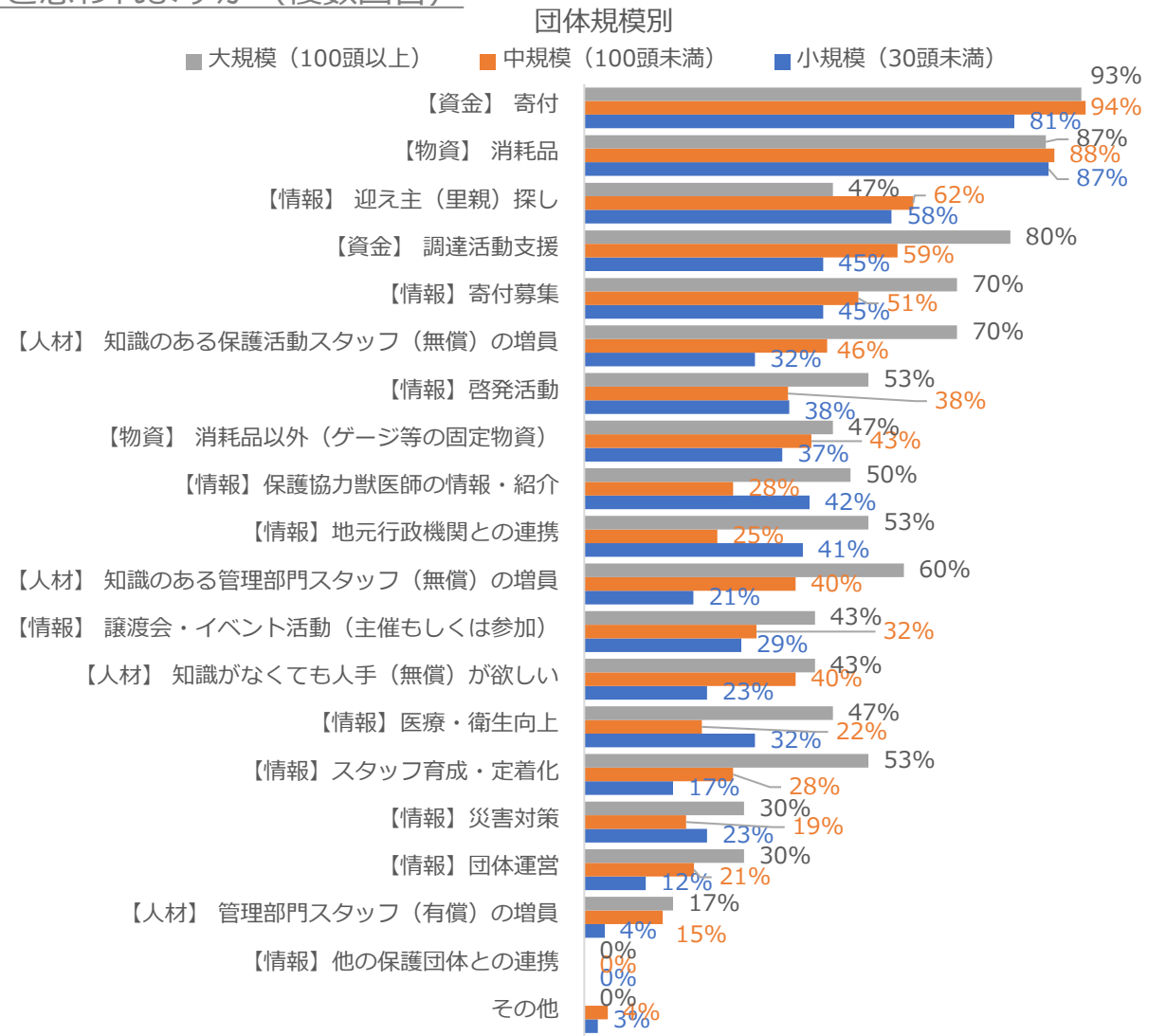
保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）

保護活動団体の意識：受きたい支援（保護対象・団体規模別）

どのような支援を受けたいと思われますか（複数回答）



保護団体数ベース（n：犬のみ=20 猫のみ=98 犬猫=58）



保護団体数ベース（n：小規模=78 中規模=68 大規模=30）